

平成 30 年度

# 埋蔵文化財調査年報



豊岡市耳谷草山古墳群

令和元（2019）年 12 月

兵庫県立考古博物館



## 例 言

1. 本書は平成 30 年度に兵庫県教育委員会・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した埋蔵文化財調査事業にかかる年報である。
2. 発掘調査及び出土品整理については、兵庫県立考古博物館が調整業務を行い、兵庫県教育委員会から委託を受けた公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が実施した。それ以外の事業については兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが協力して実施した。
3. 「発掘調査の概要」は旧国別に編集し、摂津、播磨、但馬の順に掲載している。
4. 本文中の事業者および事業名は発掘調査実施当時の名称としている。
5. 本文中に使用した遺跡の位置図は、国土地理院発行の電子地形図 25,000 を使用している。
6. 遺跡調査番号は各年度の発掘調査毎に個別に付した番号であり、平成 30 年度は「2018」で始まる 7 桁の数字で表記している。
7. 本書は発掘調査成果を速やかに公表することを目的として刊行するものであり、調査成果についてはまだ十分な検討を終えていない。このため今後の出土品整理により、本書の記載内容と異なる検討結果が得られる可能性がある。その際は後日刊行される発掘調査報告書をもって内容の修正を行うものである。

## 目 次

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 第1章 埋蔵文化財調査事業の概要                 | 1  |
| 1 調査の体制                          | 1  |
| 2 発掘調査事業の動向                      | 1  |
| 3 出土品整理事業の動向                     | 1  |
| 4 調査一覧                           | 2  |
| 第2章 発掘調査事業の概要                    | 5  |
| 1 青谷遺跡（神戸市西区）                    | 6  |
| 2 明石城武家屋敷跡（明石市）                  | 8  |
| 3 片山遺跡（加古川市）                     | 14 |
| 4 宗佐南遺跡（加古川市）                    | 17 |
| 5 宗佐遺跡（加古川市）                     | 19 |
| 6 津万遺跡（西脇市）                      | 23 |
| 7 前島・検上田遺跡（西脇市）                  | 25 |
| 8 池ノ下遺跡（姫路市）                     | 28 |
| 9 郷着遺跡（姫路市）                      | 31 |
| 10 前田遺跡（姫路市）                     | 35 |
| 11 中筋遺跡（姫路市）                     | 38 |
| 12 竹原9号・11号窯（たつの市）               | 41 |
| 13 福井池の下遺跡（相生市）                  | 43 |
| 14 有年牟礼・井田遺跡（赤穂市）                | 47 |
| 15 竹貫古墳群（豊岡市）                    | 48 |
| 16 竹貫中世墓（豊岡市）                    | 50 |
| 17 耳谷草山古墳群（豊岡市）                  | 52 |
| 18 耳谷草山遺跡（豊岡市）                   | 56 |
| 第3章 出土品整理事業の概要                   | 58 |
| 第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業） | 59 |
| 1 事業の概要                          | 59 |
| 2 発掘調査の支援                        | 59 |
| 3 市町職員研修                         | 60 |
| 第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要      | 61 |
| 1 現地説明会の開催                       | 61 |
| 2 発掘調査速報展示                       | 61 |
| 3 GENBAビューイングの開催                 | 62 |
| 4 メインホール展示                       | 62 |
| 5 発掘調査速報会の開催                     | 62 |
| 6 ひょうごの遺跡の刊行                     | 63 |
| 7 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡」の実施        | 64 |
| 8 バックヤード見学ツアーの開催                 | 64 |



## 第1章 埋蔵文化財調査事業の概要

### 1 調査の体制

平成 24 年度に埋蔵文化財調査部を県立考古博物館から（公財）兵庫県まちづくり技術センター（以下、「センター」いう。）へ移管して以来、国及び県が実施する開発事業に伴う調整、発掘調査計画の策定、事業地内の埋蔵文化財の状況を把握するための分布調査・確認調査・工事立会及び小規模な本発掘調査については県立考古博物館総務部埋蔵文化財課が担当し、大規模な本発掘調査及び出土品整理作業については県教育委員会から委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施している。

調査に従事した職員は、兵庫県立考古博物館が 4 名、センター埋蔵文化財調査部が 20 名である。以下で説明するように、平成 30 年度は大幅な事業量の増加が見込まれたため、調査課を 2 課体制とし、県新規採用職員の派遣、センターでの県 OB 職員・臨時的専門員の任用により、センター埋蔵文化財調査部の職員を増員して発掘調査体制を整えた。

センター埋蔵文化財調査部職員の内訳は、14 名が県派遣職員、2 名が県 OB 職員、4 名が臨時的専門員である。また出土品整理については、28 名の整理技術嘱託員が接合・復元・実測・保存処理等の作業を担当した。

### 2 発掘調査事業の動向

平成 28 年度は発掘調査量が激減し、平成以降最も少なくなったが、平成 29 年度には一転して大幅に増加し、平成 30 年度もほぼ同じ量を保っている。これは国土交通省豊岡河川国道事務所による北近畿豊岡自動車道建設や同姫路河川国道事務所による相生・有年道路建設、県東播磨県民局加古川土木事務所による東播磨道路建設など、高規格道路の工事が本格化し、これらに伴う発掘調査が増加したことによる。

平成 30 年度に実施した調査は 4 の調査一覧のとおりである。内訳は本発掘調査が 19 件、分布調査が 37 件、確認調査が 22 件、工事立会が 10 件である。本発掘調査のうち 18 件はセンターが、1 件については県立考古博物館が実施した。センターが受託した本発掘調査の内訳は、国事業に伴う調査が 9 件、県事業に伴う調査が 9 件、調査面積は 28,651 m<sup>2</sup>である。

### 3 出土品整理事業の動向

出土品整理事業については県教育委員会からの委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施した。NEXCO 西日本による新名神高速道路建設、国土交通省豊岡河川国道事務所による北近畿豊岡自動車道建設、同兵庫国道事務所による西脇北バイパス建設など、過去の大型道路事業に伴う出土品整理を継続的に実施するとともに、姫路市への支援事業として駅前再開発や区画整理事業に伴う出土品整理を実施し、前年度に比べ事業量はやや増加した。

平成 30 年度に実施した出土品整理事業は 18 件、うち 8 件について発掘調査報告書を刊行した。内訳は国事業が 5 件、県事業が 6 件、NEXCO 西日本事業が 3 件、市町事業（姫路市）が 4 件である。

## 4 調査一覧

### 本発掘調査

| 遺跡調査番号  | 遺跡名          | 所在地           | 事業者名                     | 事業名                           | 調査期間                  | 調査の概要               |
|---------|--------------|---------------|--------------------------|-------------------------------|-----------------------|---------------------|
| 2018001 | 耳谷草山古墳群      | 豊岡市日高町山本      | 国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所    | 一般国道483号日高豊岡南道路               | 2018/5/1 ~ 2019/1/10  | 古墳時代前期～中期後半の12基の古墳群 |
| 2018002 | 耳谷草山遺跡       | 豊岡市日高町山本      | 国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所    | 一般国道483号日高豊岡南道路               | 2018/5/1 ~ 2018/8/1   | 柱穴・溝・段状遺構を検出        |
| 2018003 | 竹貫古墳群        | 豊岡市日高町竹貫      | 国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所    | 一般国道483号日高豊岡南道路               | 2018/4/18 ~ 2018/8/10 | 古墳時代中期末の2基の古墳群      |
| 2018004 | 竹貫墳墓群        | 豊岡市日高町竹貫      | 国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所    | 一般国道483号日高豊岡南道路               | 2018/4/18 ~ 2018/8/29 | 2基の中世墓              |
| 2018005 | 宗佐遺跡C        | 加古川市八幡町宗佐     | 東播磨県民局加古川土木事務所           | 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業 | 2018/4/10 ~ 2018/8/10 | 弥生時代～古墳時代、中世の集落跡    |
| 2018006 | 宗佐南遺跡        | 加古川市八幡町宗佐     | 東播磨県民局加古川土木事務所           | 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業 | 2018/5/22 ~ 2018/8/10 | 平安時代～鎌倉時代の集落跡       |
| 2018008 | 明石城武家屋敷跡     | 明石市桜町         | 国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所      | 国道2号明石駅前交差点改良事業               | 2018/5/8 ~ 2018/11/1  | 江戸時代の城下町            |
| 2018009 | 福井池の下遺跡      | 相生市若狭野町福井・若狭野 | 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所    | 一般国道2号相生有年道路改築事業              | 2018/9/20 ~ 2019/2/15 | 弥生時代中期、古墳時代前期の集落跡   |
| 2018010 | 有年牟礼・井田遺跡    | 赤穂市有年牟礼       | 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所    | 一般国道2号相生有年道路改築事業              | 2018/9/20 ~ 2019/2/15 | 古墳時代以降の旧河道          |
| 2018011 | 前田遺跡         | 姫路市網干区高田      | 中播磨県民センター姫路土木事務所         | (主)太子御津線 社会資本整備総合交付金事業        | 2018/5/9 ~ 2018/9/20  | 弥生時代～中世の集落跡         |
| 2018012 | 中筋遺跡         | 姫路市網干区高田      | 中播磨県民センター姫路土木事務所         | (主)太子御津線 社会資本整備総合交付金事業        | 2018/5/9 ~ 2018/9/20  | 弥生時代、古墳時代、中世の集落跡    |
| 2018013 | 池ノ下遺跡        | 姫路市苔編         | 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所    | 一般国道2号姫路バイパス改築事業              | 2018/6/29 ~ 2018/9/6  | 弥生時代の粘土採掘坑          |
| 2018014 | 前島・検上田遺跡     | 西脇市前島町        | 北播磨県民局加東土木事務所            | (一)中安田市原線 交差点改良事業             | 2018/7/3 ~ 2018/8/30  | 古墳時代後期の集落跡          |
| 2018015 | 津万遺跡群(西嶋4W区) | 西脇市西嶋         | 国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所      | 一般国道175号西脇北バイパス事業             | 2018/12/3 ~ 2019/1/31 | 弥生時代、古墳時代、平安時代の集落跡  |
| 2018016 | 郷着遺跡         | 姫路市広畑区才       | 中播磨県民センター姫路土木事務所         | (一)広畑青山線社会資本整備総合交付金事業         | 2018/9/20 ~ 2019/2/20 | 弥生時代～古墳時代、平安時代の集落跡  |
| 2018020 | 青谷遺跡         | 神戸市西区榎谷町菅野    | 西日本高速道路株式会社関西支社第二神明道路事務所 | 一般国道2号(第二神明道路)建設事業            | 2018/9/11 ~ 2019/2/22 | 古代の焼土坑              |
| 2018036 | 宗佐遺跡D        | 加古川市八幡町宗佐     | 東播磨県民局加古川土木事務所           | 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業 | 2018/9/13 ~ 2018/1/25 | 弥生時代～古墳時代、中世の集落跡    |
| 2018037 | 宗佐南遺跡B       | 加古川市八幡町宗佐     | 東播磨県民局加古川土木事務所           | 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業 | 2018/9/13 ~ 2018/1/25 | 平安時代～鎌倉時代の集落跡       |
| 2018038 | 片山遺跡C        | 加古川市八幡町下村     | 東播磨県民局加古川土木事務所           | 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業 | 2018/9/13 ~ 2018/1/25 | 弥生時代後期、平安時代後期の集落跡   |
| 2018071 | 竹原9号窯        | たつの市揖西町竹原     | 西播磨県民局光都農林振興事務所          | 県単独緊急防災事業                     | 2018/2/18 ~ 2018/3/20 | 平安時代後期の2基の須恵器窯跡     |

### 分布調査

| 遺跡調査番号  | 遺跡名 | 所在地         | 事業者名                  | 事業名                  | 調査期間                  | 調査の概要          |
|---------|-----|-------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|----------------|
| 2018017 |     | 神戸市中央区熊内橋通  | 厚生労働省年金局事業企画課         | 地下埋設物調査              | 2018/6/26 ~ 2018/6/26 | 埋蔵文化財なし        |
| 2018021 |     | 豊岡市内町       | 但馬県民局豊岡土木事務所          | 通常砂防事業(砂)寺谷川         | 2018/4/9 ~ 2018/4/9   | 一部に埋蔵文化財あり     |
| 2018022 |     | 豊岡市出石町百合    | 但馬県民局豊岡土木事務所          | 急傾斜地崩壊対策事業(急)百合I地区   | 2018/4/19 ~ 2018/4/19 | 一部に埋蔵文化財あり     |
| 2018023 |     | 豊岡市上ノ町      | 但馬県民局豊岡土木事務所          | 急傾斜地崩壊対策事業(急)佐野(2)地区 | 2018/4/9 ~ 2018/4/9   | 埋蔵文化財なし        |
| 2018024 |     | 豊岡市中郷～出石町片間 | 但馬県民局豊岡土木事務所          | (国)482号 片間道路         | 2018/4/19 ~ 2018/4/19 | 一部に埋蔵文化財あり     |
| 2018025 |     | 豊岡市出石町宮内    | 但馬県民局豊岡土木事務所          | 通常砂防事業(砂)左支浜第1I      | 2018/4/19 ~ 2018/4/19 | 一部に埋蔵文化財あり     |
| 2018029 |     | 多可町八千代区     | 北播磨県民局加東農林振興事務所       | 治山事業                 | 2018/5/30 ~           | 一部に埋蔵文化財あり     |
| 2018031 |     | 美方郡香美町岡区    | 国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所 | 笠波峠除雪拡幅              | 2018/6/21 ~ 2018/6/21 | 埋蔵文化財なし        |
| 2018034 |     | たつの市龍野町片山   | 西播磨県民局龍野土木事務所         | 山根川総合防災事業            | 2018/8/1 ~ 2018/8/1   | 埋蔵文化財なし        |
| 2018035 |     | 豊岡市上佐野      | 国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所 | 一般国道483号豊岡道路         | 2018/8/7 ~ 2018/8/7   | 広峯1号墳と平坦面が存在する |

## 分布調査

| 遺跡調査番号  | 遺跡名      | 所在地         | 事業者名                   | 事業名                                | 調査期間                    | 調査の概要         |
|---------|----------|-------------|------------------------|------------------------------------|-------------------------|---------------|
| 2018040 | 竹原9号窯    | たつの市揖西町竹原   | 西播磨県民局光都農林振興事務所        | 県単独緊急防災事業                          | 2018/9/10 ~ 2018/9/10   | 竹原9号窯が存在する    |
| 2018042 | 田ノ脇西遺跡   | 淡路市岩屋字田ノ脇   | 淡路県民局洲本農林水産振興事務所       | 復旧治山事業                             | 2018/9/11 ~ 2018/9/11   | 田ノ脇西遺跡が存在する   |
| 2018043 | 三津田城跡    | 三木市志染町三津田   | 北播磨県民局加東農林振興事務所        | 治山事業                               | 2018/9/12 ~ 2018/9/12   | 三津田城跡が存在する    |
| 2018044 |          | 姫路市書写字観音寺ノ下 | 企画県民部                  | 県立大学姫路工学キャンパス学生サークル会館耐震補強その他建設工事   | 2018/9/18 ~ 2018/9/18   | 埋蔵文化財なし       |
| 2018045 | 猪名川河床遺跡  | 尼崎市椎堂       | 国土交通省近畿地方整備局猪名川河川国道事務所 | 原田西地区他掘削他工事                        | 2018/9/13 ~ 2018/9/13   | 一部に埋蔵文化財あり    |
| 2018046 | 高倉仁位間曲輪群 | 佐用郡佐用町仁位    | 西播磨県民局光都農林振興事務所        | 治山施設災害復旧事業                         | 2018/9/27 ~ 2018/9/27   | 高倉仁位間曲輪群が存在する |
| 2018048 |          | 丹波市水上町香良    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 復旧治山事業                             | 2018/10/15 ~ 2018/10/15 | 一部に埋蔵文化財あり    |
| 2018054 |          | たつの市揖西町土師   | 家畜改良センター兵庫牧場           | 公務員宿舎(兵庫)解体撤去工事                    | 2018/11/9 ~ 2018/11/9   | 埋蔵文化財なし       |
| 2018057 |          | 養父市八鹿町朝倉    | 但馬県民局朝来農林振興事務所         | 災害関連緊急治山事業                         | 2018/11/13 ~ 2018/11/13 | 埋蔵文化財なし       |
| 2018058 |          | 丹波市水上町市辺    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 復旧治山事業                             | 2018/11/19 ~ 2018/11/19 | 埋蔵文化財なし       |
| 2018059 |          | 丹波市水上町石生    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 予防治山事業                             | 2018/11/19 ~ 2018/11/19 | 埋蔵文化財なし       |
| 2018060 |          | 丹波市山南町井原    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 県単独県営治山事業・兼単独緊急防災事業                | 2018/11/19 ~ 2018/11/19 | 埋蔵文化財なし       |
| 2018061 | 横田遺跡     | 丹波市水上町横田    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 県単独緊急防災事業                          | 2018/11/19 ~ 2018/11/19 | 横田遺跡が存在する     |
| 2018062 |          | 水上町横田丹波市    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 県単独緊急防災事業                          | 2018/11/19 ~ 2018/11/19 | 埋蔵文化財なし       |
| 2018063 |          | 丹波市水上町市辺    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 県単独緊急防災事業                          | 2018/11/19 ~ 2018/11/19 | 埋蔵文化財なし       |
| 2018064 |          | 丹波市青垣町中佐治   | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 県単独緊急防災事業                          | 2018/11/19 ~ 2018/11/19 | 埋蔵文化財なし       |
| 2018065 |          | 丹波市柏原町鴨野    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 県単独緊急防災事業                          | 2018/11/22 ~ 2018/11/22 | 埋蔵文化財なし       |
| 2018066 | 高見城跡     | 丹波市柏原町鴨野    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 県単独緊急防災事業                          | 2018/11/22 ~ 2018/11/22 | 高見城跡が存在する     |
| 2018067 | 萱刈坂1～5号墳 | 丹波市柏原町鴨野    | 丹波県民局丹波農林振興事務所         | 県単独緊急防災事業                          | 2018/11/22 ~ 2018/11/22 | 萱刈坂1～5号墳が存在する |
| 2018073 |          | 洲本市千草乙      | 淡路県民局洲本土地改良事務所         | 広域営農団地農道整備事業南淡路地区(国)372号歩道リニューアル工事 | 2018/12/4 ~ 2018/12/4   | 埋蔵文化財あり       |
| 2018074 |          | 加西市下宮木町     | 北播磨県民局加東土木事務所          | 淡路地区復旧治山事業(30K第17号)                | 2018/12/6 ~ 2018/12/6   | 埋蔵文化財なし       |
| 2018075 |          | 淡路市郡家       | 淡路県民局洲本農林水産振興事務所       | 淡路地区復旧治山事業(30K第17号)                | 2019/1/8 ~ 2019/1/8     | 埋蔵文化財なし       |
| 2018077 |          | 姫路市延末字橋詰    | 兵庫県中播磨県民センター姫路土地改良センター | 農村地域防災減災事業(河川応急)                   | 2018/12/5 ~ 2018/12/5   | 埋蔵文化財なし       |
| 2018079 | 山田奥窯跡    | 赤穂市有年牟礼     | 西播磨県民局光都農林振興事務所        | 県単独緊急防災事業                          | 2018/12/28 ~ 2018/12/28 | 山田奥窯跡が存在する    |
| 2018081 | 湯山場跡     | 神戸市北区有馬町    | 神戸県民センター六甲治山事務所        | 復旧治山事業                             | 2019/1/7 ~ 2019/1/7     | 埋蔵文化財なし       |
| 2018084 |          | 丹波市水上町新郷    | 丹波県民局丹波土木事務所           | (一)福知山山南線歩道整備事業                    | 2019/1/15 ~ 2019/1/15   | 埋蔵文化財なし       |
| 2018087 |          | 豊岡市上佐野      | 国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所  | 一般国道483号豊岡道路2号工事工入路                | 2019/2/7 ~ 2019/2/7     | 埋蔵文化財あり       |

## 確認調査

| 遺跡調査番号  | 遺跡名      | 所在地       | 事業者名                     | 事業名                           | 調査期間                    | 調査の概要       |
|---------|----------|-----------|--------------------------|-------------------------------|-------------------------|-------------|
| 2018007 | 宗佐遺跡     | 加古川市八幡町宗佐 | 東播磨県民局加古川土木事務所           | 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業 | 2018/4/10 ~ 2018/5/2    | 埋蔵文化財あり     |
| 2018018 | 玉津田中遺跡他  | 神戸市西区平野町他 | 西日本高速道路株式会社関西支社第二神明道路事務所 | 一般国道2号(第二神明道路)建設事業            | 2018/9/11 ~ 2019/2/22   | 埋蔵文化財あり     |
| 2018019 | 上戸田地区    | 西脇市上戸田    | 国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所      | 一般国道175号西脇バイパス事業              | 2019/1/31 ~ 2019/2/20   | 弥生時代～中世の集落跡 |
| 2018027 | 鞠散布地     | 朝来市山東町滝田  | 但馬県民局朝来農林振興事務所           | 県単独緊急防災事業(30単防第23号)           | 2018/12/19 ~ 2018/12/19 | 埋蔵文化財なし     |
| 2018028 | 竜山採石遺跡   | 高砂市竜山     | 東播磨県民局加古川土木事務所           | (一)伊保阿弥陀線                     | 2018/4/25 ~ 2018/4/25   | 埋蔵文化財なし     |
| 2018030 | 興井慶寺跡    | 赤穂郡上郡町興井  | 西播磨県民局光都農林振興事務所          | 千種川水系県単独緊急防災事業                | 2018/6/19 ~ 2018/6/22   | 奈良時代の寺院     |
| 2018032 | 東有年・沖田遺跡 | 赤穂市東有年    | 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所    | 一般国道2号相生有年道路改築事業              | 2019/2/4 ~ 2019/2/4     | 弥生時代の集落跡    |
| 2018041 | 神呪寺跡     | 西宮市甲山町    | 阪神南県民センター西宮土木事務所         | 駐車場等整備事業                      | 2018/9/11 ~ 2018/9/11   | 埋蔵文化財なし     |
| 2018047 | 猪名川河床遺跡  | 尼崎市椎堂     | 国土交通省近畿地方整備局猪名川河川国道事務所   | 原田西地区他掘削他工事                   | 2018/10/30 ~ 2018/10/30 | 埋蔵文化財なし     |
| 2018049 | 兵庫津遺跡    | 神戸市兵庫区湊町  | 国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所      | 国道2号七宮交差点改良工事                 | 2018/11/13 ~ 2018/11/14 | 埋蔵文化財なし     |
| 2018050 | 前田遺跡     | 姫路市網干区高田  | 中播磨県民センター姫路土木事務所         | (主)太子御津線 社会資本整備総合交付金事業        | 2019/1/24 ~ 2019/1/24   | 一部に埋蔵文化財あり  |
| 2018051 | 櫻山古墳群    | 小野市櫻山町    | 北播磨県民局加東土木事務所            | 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業 | 2019/1/28 ~ 2019/1/29   | 埋蔵文化財なし     |
| 2018053 |          | 加古川市平岡町中野 | 東播磨県民局加古川土木事務所           | (一)水田川広域河川改修事業                | 2018/12/11 ~ 2018/12/11 | 埋蔵文化財なし     |
| 2018056 | 郷着遺跡     | 姫路市広畑区才   | 中播磨県民センター姫路土木事務所         | (一)広畑青山線社会資本整備総合交付金事業         | 2018/10/31 ~ 2018/10/31 | 埋蔵文化財あり     |

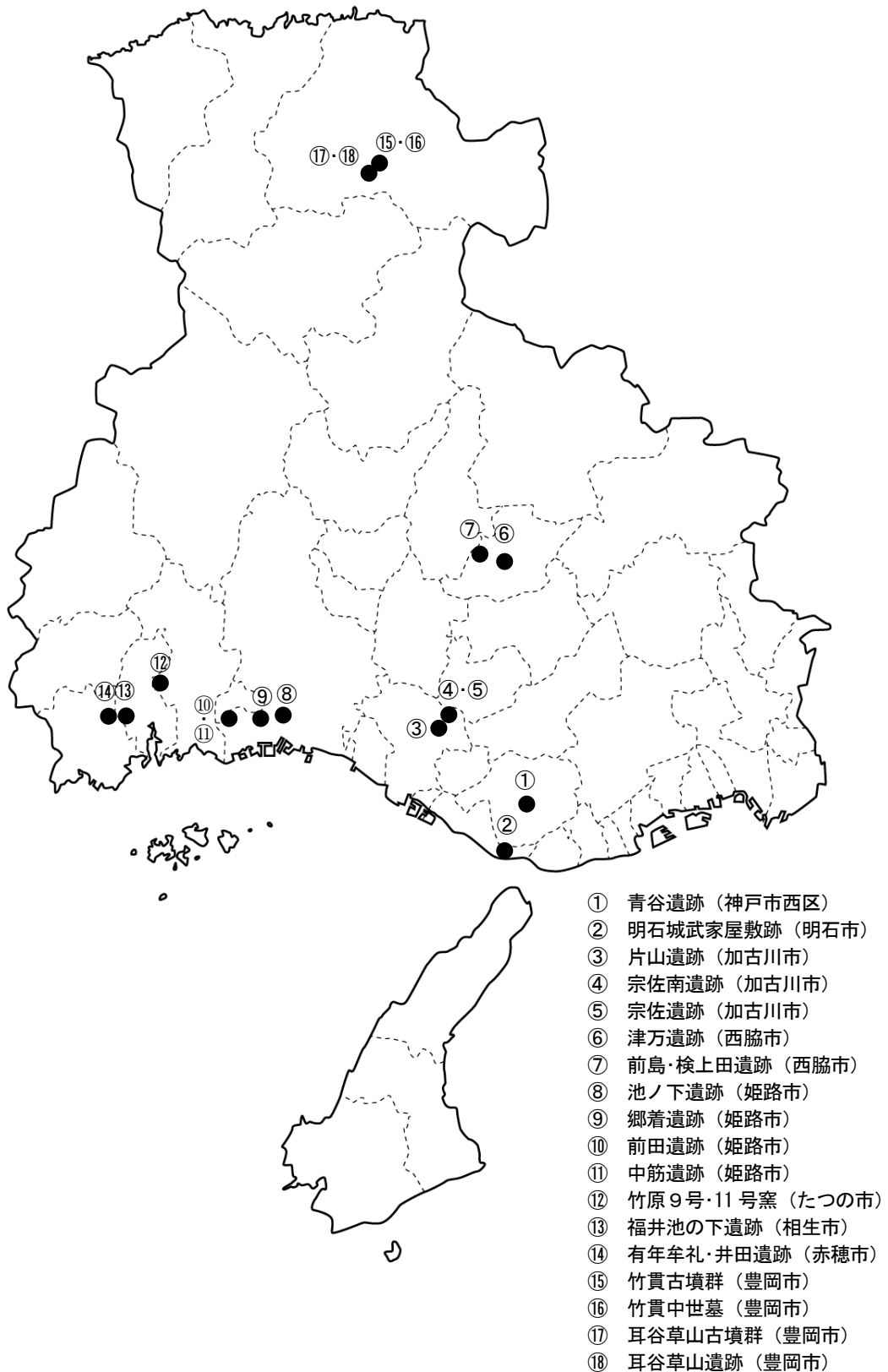
## 確認調査

| 遺跡調査番号  | 遺跡名       | 所在地          | 事業者名                   | 事業名                                       | 調査期間                    | 調査の概要      |
|---------|-----------|--------------|------------------------|-------------------------------------------|-------------------------|------------|
| 2018069 | 下芥田町遺物散布地 | 加西市下芥田町      | 北播磨県民局加東土木事務所          | 大和北条停車場線路肩拡幅工事                            | 2018/11/26 ~ 2018/11/26 | 埋蔵文化財なし    |
| 2018076 | 明石公園遺跡    | 明石市明石公園      | 東播磨県民局加古川土木事務所         | (仮称)明石街づくり対策室庁舎移転事業                       | 2019/2/20 ~ 2019/2/20   | 埋蔵文化財なし    |
| 2018078 | 下ノ田遺跡     | 養父市関宮町       | 但馬県民局養父土木事務所           | (主)関宮小代線 吉井バイパス事業                         | 2018/12/17 ~ 2018/12/18 | 埋蔵文化財なし    |
| 2018080 |           | 宍粟市千種町千草     | 西播磨県民局龍野土木事務所<br>宍粟事業所 | 国道429号(防災・安全交付金事業)歩道設置工事                  | 2019/1/7 ~ 2019/1/7     | 埋蔵文化財なし    |
| 2018082 | 宇原地区散布地   | 宍粟市山崎町宇原     | 西播磨県民局龍野土木事務所<br>宍粟事業所 | (主)宍粟香寺線道路改良事業                            | 2019/1/24 ~ 2019/1/24   | 埋蔵文化財なし    |
| 2018083 |           | 洲本市千草乙       | 淡路県民局洲本土地改良事務所         | 広域営農団地農道整備事業南淡路地区                         | 2019/1/29 ~ 2019/2/1    | 埋蔵文化財なし    |
| 2018085 |           | 佐用郡佐用町口金近    | 西播磨県民局光都土木事務所          | 県単独土砂災害対策事業(急)口金近(2)地区<br>急傾斜地崩壊対策工事(その1) | 2019/1/25 ~ 2019/1/25   | 埋蔵文化財なし    |
| 2018086 | 奥豊部1～15号墳 | 多可郡多可町加美区奥豊部 | 北播磨県民局加東土木事務所          | (砂)安田川原谷川砂防堰堤工事                           | 2019/2/12 ~ 2019/2/12   | 埋蔵文化財なし    |
| 2018089 |           | 赤穂市有年        | 西播磨県民局光都土木事務所          | 千種川水系矢野川広域河川改修事業                          | 2019/2/12 ~ 2019/2/12   | 埋蔵文化財なし    |
| 2018090 | 和坂散布地     | 明石市和坂        | 東播磨県民局加古川土木事務所         | 国道2号拡幅                                    | 2019/2/5 ~ 2019/2/5     | 埋蔵文化財なし    |
| 2018092 | 兵庫津遺跡     | 神戸市兵庫区中之島    | 企画県民部地域創生局地域遺産課        | 県庁発祥の地整備事業                                | 2019/3/18 ~ 2019/3/20   | 兵庫津遺跡が存在する |
| 2018093 |           | 相生市那波        | 西播磨県民局光都土木事務所          | 竜泉那波線                                     | 2019/3/18 ~ 2019/3/18   | 埋蔵文化財なし    |

## 工事立会

| 遺跡調査番号  | 遺跡名    | 所在地         | 事業者名              | 事業名                           | 調査期間                    | 調査の概要   |
|---------|--------|-------------|-------------------|-------------------------------|-------------------------|---------|
| 2018026 | 尼崎城跡   | 尼崎市中在家町     | 阪神南県民センター尼崎港管理事務所 | (一)淀川水系 庄下川護岸補強工事             | 2018/4/5 ~ 2018/4/5     | 埋蔵文化財なし |
| 2018033 | 柏原旧城下町 | 丹波市柏原町柏原    | 大阪高等裁判所           | 神戸地家裁柏原支部庁舎敷地調査               | 2018/7/25 ~ 2018/7/25   | 埋蔵文化財あり |
| 2018039 | 山垣遺跡   | 丹波市青垣町遠阪    | 丹波県民局丹波土木事務所      | 国道427歩道設置工事                   | 2018/8/20 ~ 2018/8/20   | 埋蔵文化財なし |
| 2018052 | 宗佐遺跡   | 加古川市八幡町宗佐   | 東播磨県民局加古川土木事務所    | 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業 | 2019/2/28 ~ 2019/2/28   | 埋蔵文化財あり |
| 2018055 | 尼崎城跡   | 尼崎市中在家町・西本町 | 阪神南県民センター尼崎港管理事務所 | (一)淀川水系 庄下川護岸補強工事             | 2018/11/14 ~ 2018/11/14 | 埋蔵文化財なし |
| 2018068 | 史跡明石城  | 明石市明石公園     | 東播磨県民局加古川土木事務所    | 明石公園1号便所改修工事                  | 2018/11/20 ~ 2018/11/20 | 埋蔵文化財なし |
| 2018070 | 赤穂城城下町 | 赤穂市加里屋町     | 西播磨県民局光都土木事務所     | 加里屋川護岸工事                      | 2018/12/21 ~ 2019/1/17  | 近代の護岸   |
| 2018072 | 大新屋遺跡  | 丹波市柏原町大新屋   | 丹波県民局丹波土木事務所      | 稲畑柏原線道路改良                     | 2018/10/30 ~ 2018/10/30 | 埋蔵文化財なし |
| 2018088 | 柿の木遺跡  | 加西市玉野       | 北播磨県民局加東土木事務所     | (主)多可北条線交差点改良工事               | 2019/1/21 ~ 2019/1/21   | 埋蔵文化財なし |
| 2018091 | 神子田遺跡  | 赤穂郡上郡町中野    | 西播磨県民局光都土木事務所     | 千種川水系高田川河川災害復旧工事              | 2019/3/5 ~ 2019/3/5     | 埋蔵文化財なし |

## 第2章 発掘調査事業の概要





あおたに

## 1 青谷遺跡

遺跡調査番号 2018020

所在地 神戸市西区櫨谷町菅野  
事業者名 西日本高速道路株式会社  
関西支社第二神明道路事務所  
事業名 一般国道2号（第二神明道路）建設事業  
担当者 篠宮 正・村上泰樹・青山 航  
種別 本発掘調査  
期間 平成30年9月11日～平成31年2月22日  
面積 54 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「全開」）

### 1 調査に至る経過

神戸市垂水区名谷町から明石市大久保町の間の12.5 kmにおいて一般国道2号（第二神明道路）建設事業を計画・実施している。平成30年度に西日本高速道路株式会社関西支社第二神明道路事務所からの調査依頼を受け、確認調査を実施した。そのうち、No127 地点 T11-3 調査区では遺構を検出した。そのため、遺構のある範囲を拡張し54 m<sup>2</sup>の本発掘調査を実施した。

### 2 調査の概要

谷部中央付近で2基の焼土坑（SX01・SX02）と炭土坑（SX03）を検出した。

SX01は調査区の中央付近に位置し、1.2m×1.4mの南北方向に長い楕円形で、深さは最深部で25 cmあった。土坑の南壁付近は被熱で著しく赤変しており、土坑内からは焼土・炭・灰を検出した。

SX02はSX01の南側斜面上方に位置し、約1.5m離れている。規模は1.9m×1.8mの円形で、深さは最深部で12 cmと浅かった。SX01と同様に、土坑内からは炭と焼土を検出したが、SX01と異なり被熱による赤化部分は確認できなかった。

SX03はSX01の北側斜面下方に位置し、距離は1.5mである。規模は長さ70 cm、幅30 cm以上の楕円形の土坑で、炭を多量に含む。

遺物はSX01とSX02の間、SX02寄りの遺構面より、古代の須恵器（瓶の体部）が出土した。

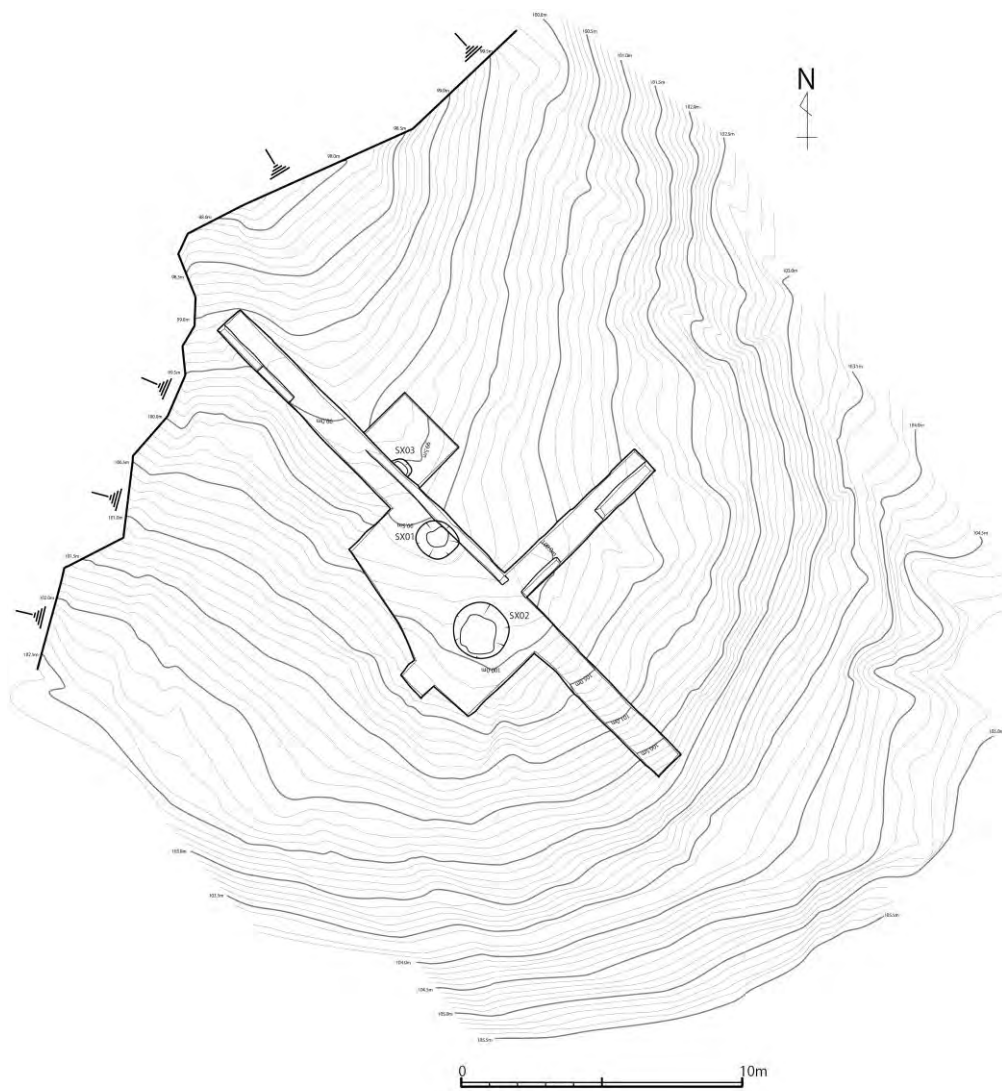
### 3 まとめ

今回の調査では、古代の焼土坑2基（SX01・SX02）と炭土坑1基（SX03）を検出した。これらの焼土坑および炭土坑は、何らかの熱処理を伴う工房跡と理解できるが、その性格は今回の調査では明らかにできなかった。

今回検出した焼土坑に類似する遺構は、神戸市教育委員会が調査を実施した隣接する城ヶ谷遺跡でも見つかっており、奈良時代の遺物が出土している。今回出土した古代の須恵器とも時期は変わらない。



T11-3 調査区全景（南東から）



T11-3 調査区配置図



SX01 (北西から)



SX02 (北西から)



あかしじょうぶけやしきあと

## 2 明石城武家屋敷跡

遺跡調査番号 2018008

所在地 明石市桜町  
事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
兵庫県国道事務所  
事業名 国道2号明石駅前交差点改良事業  
担当者 久保弘幸・松崎光伸  
種別 本発掘調査  
期間 平成30年6月4日～11月9日  
面積 933 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「明石」）

### 1 調査に至る経過

国土交通省兵庫国道事務所は、明石市桜町周辺において、国道2号明石駅前交差点の改良事業を行っている。当該事業地は、周知の遺跡である明石城武家屋敷跡にあたっているため、兵庫県教育委員会では本年度、兵庫国道事務所の依頼（国近整兵二第215号）に基づき、事業地内の本発掘調査を実施することとなった。

### 2 調査の概要

#### 【調査区の層序と遺構面】

調査区周辺は江戸時代以来の市街地であり、現在はほぼ平坦な地形である。現地表の標高は、海拔2.5m前後を測る。調査区内の層序については、調査区壁面を精査して分層し、写真および断面図によって記録した。調査区内の基本的層序は、全調査区を通じて概ね同様であった。

**旧表土層：**いずれの調査区においても近代以降の攪乱が著しいため、江戸～明治期の旧表土層が遺存している部分はわずかであった。旧表土層は小礫を含む極細砂～中砂程度の砂層で土壌化が進行している。本層直下が、江戸時代の遺構検出面（第1面）にあたる。

**礫混じり砂層：**旧表土下には広い範囲で、小礫を含む、厚さ10～15cmほどの砂層が堆積しており、武家屋敷造営以前の洪水を示している。

**にぶい黄褐色砂質シルト層：**上記砂層下には、概ね3～4層にわたってにぶい黄褐色を呈する砂質シルトないしはシルト質砂が堆積しており、少数ながら奈良時代～室町時代の遺物を包含している。本層最上面には、調査区全域で中世後半期の遺構面（第2面）が認められ、この下位では奈良～平安時代の遺構面が部分的に認められた（第3面）。

**暗褐色砂質シルト層：**黄褐色砂質シルト層の下位には、低湿地堆積物と推定される暗褐色を呈する砂質シルト層が広い範囲に堆積していた。本層内には、弥生土器・須恵器・土師器を包含しており、調査地周辺に弥生時代～古墳時代後期の遺跡が存在したことを示唆している（第4面）。

**最下位砂礫層：**今回調査した最下層である。概ね海拔0m以下にあたり、掘削が本層に到達すると多量に湧水するため以下の調査は不可能であった。江戸時代の井戸は、いずれもこの砂礫層の湧水点に達し



ていた。弥生時代前期のものを含むごく少数の弥生土器が出土している。

#### 【遺構検出面】

**第1面**：江戸時代の遺構面である。旧表土層直下が遺構検出面となる。江戸時代の遺構の大部分は、この面で検出した。

**第2面**：南北方向にのびる鋤溝を主体に、少数の土坑等を検出したほか、第1面で識別できなかった江戸時代の遺構も、この面で検出することができた。中世後半期に相当すると考えられる。

**第3面**：明確に捉えられたのは4区東半・5区のみで、他の調査区では遺構は認められなかった。4区東半と5区では、当該面で水田の畦畔を検出した。

**第4面**：暗褐色シルト層に相当する。正確には遺構面ではなく遺物包含層と呼ぶべきであろう。弥生時代～古墳時代後期の遺物が出土している。

#### 【1・2区の調査】

1・2区の面積のうち西側3/4は、大きく攪乱されており、第1～3面は完全に失われていた。東側1/4程度については、第2面直上付近まで攪乱されていたものの、第1・2面の遺構が残存していた。検出した遺構は、第1面に属する柱穴・土坑・胞衣壺および第2面に属する鋤溝である。

柱穴群から建物跡を復元することはできなかったが、一部の柱穴では基底部に礎盤石、礎盤瓦を伴うものがあつた。

土坑には、埋桶の痕跡が見いだされたもののほか、埋甕を伴うもの（SK9）が認められる。

胞衣壺は2基を検出した。筒状を呈する素焼きの壺を用いたもの、火消し壺と考えられる素焼きの3足壺を用いたものである。内部には副納品は認められなかった。

#### 【3区の調査】

調査区中央部に、調査区全体の約 1/2 に相当する範囲の大規模な攪乱が存在しており、調査区の東西部分に遺構面が残っていた。

**第1面**：3区東部では、柱穴・土坑・溝等を検出した。

柱穴には深さ 50 cmに達するものがあり、明確な柱痕が認められるものもあつたが、調査区内では有意な柱穴の配列は認識できず、隣接する4区西部を合わせても、状況は同様であつた。

土坑は長径が 3mを超える大型で深さが 30 cm程度と浅いもの（SK100）と、検出面から 50 cmを超える深度をもつもの（SK84 など）とを認めた。

3区西部では、素掘りの井戸3基を検出した（SE1・SE27・SE48）。SE27は最下底部より、17世紀後半～18世紀前半に属する播鉢片が出土しており、武家屋敷造営初期に造られたと考えられる。SE27の南に隣接して、石組みを伴う矩形の土坑（SK28）を検出した。石組みと SE27 とがほぼ接することから、井戸に伴う一連の施設として利用されていた可能性があるが、断定には至らなかった。

埋甕遺構（SK65）は、丹波焼小型壺の内部（最大胴径約 25 cm、高さ約 25 cm）に、白色、赤褐色、黄褐色の河原石（最大径 4 cm前後）をほぼいっぱい詰めて埋設したもので、壺に隣接して花崗岩の板石が出土したことから、この板石で蓋をしていた可能性がある。壺内の石は、大きさや色調をもとに選別していることが明らかである。他に出土遺物はなく、機能は不明である。

**第2面**：3区東部で北北東～南南西方向の鋤溝を検出した。他に遺構は検出していない。

**第3・4面**：3区全域において人力掘削により調査をおこなった。少数の土師器等が出土している。

#### 【4区の調査】

**第1面**：多数の柱穴・土坑・溝・井戸・竈基底部等を検出した。

4区・5区の境界付近および4区中央付近で、南北にのびる溝を検出し（SD1・SD2およびSD114・SD117）た。これらの溝の位置は現地表の地割と合致しており、江戸時代の屋敷境界溝と推定される。また調査区中央付近のSD114・SD117付近では、柱穴に南北の並びが認められた。東西方向への広がりがあるが明確に認められないことから、屋敷地境界付近の柵、塀などの可能性が考えられる。

4区東端と中央付近では、上述の境界溝に隣接して多数の土坑が重複しており、いずれも廃棄土坑と推定した。調査区東半では、矩形の土坑の壁面を漆喰で塗った遺構を検出した（SK50）。江戸時代末の、半地下式の貯蔵穴と推定できる。

埋桶土坑も複数を検出しており、桶内部に多数の瓦を埋設した土坑（SK4）も認められる。

4区西半では、瓦積みの井戸2基を検出した（SE272・SE354）。SE272は上部を攪乱で失っていたものの、瓦積みの井戸枠3段分が遺存していたほか、瓦積みを構築する際に外護施設として二重に打設した矢板列と、水溜め用と推定される井戸下底部の矢板列を検出した。SE354は調査区南西隅に位置する。上部が攪乱を免れており、4段分の瓦積みが遺存していた。事業地と民有地の境界に位置するため、隣接する民有地の崩壊を防ぐために完掘は断念し、開発工事による影響深度までで調査を終了した。

竈の基底部（SX33）は、調査区中央付近で検出した。浅い掘り込みを設け、内部は強い火熱によって硬化し、赤褐色に変色していた。

**第2面**：4区全域にわたり、北北東～南南西方向にのびる鋤溝を検出した。他地区での事例同様、中世後半期の耕作痕と考えられる。他に柱穴・土坑などを検出しているが、遺構密度は低い。

**第3面**：4区東半で、南北方向にのびる大畦畔の痕跡を検出した。明確に時期を判断できる遺物は出土しなかったが、5区同様、平安時代前後の時期が想定される。

**第4面**：遺構は検出されなかったが、第4面を形成する暗褐色の砂質シルト層からは、古墳時代後期の須恵器、弥生土器を含む遺物が少数出土している。

#### 【5区の調査】

**第1面**：柱穴・土坑を検出した。

5区東部北寄りに位置するSK25・SK27は、埋桶である。いずれも桶の材は遺存していなかったが、土坑下底面に桶の痕跡を検出した。SK25からは多数の瓦が出土している。

SD119は5区西端に位置しており、南北にのびる。その位置から、屋敷地境界の溝と考えられる。SD119の西側（4区）には、同一方向の溝や、近代の溝・柱穴列を検出したことから、この付近は長年にわたって土地境界であったと考えられる。

SK121はSD119を切って掘り込まれ、多数の陶磁器類が出土している。廃棄土坑と考えられる。

**第2面**：北北東～南南西方向の鋤溝群と、これに直交する溝を検出した。中世後半期の耕作痕と考えられる。その他の遺構は検出していない。

**第3面**：東南東～西北西方向の畦畔を痕跡的に検出した。その状況から、第3面は水田面であった可能性がある。第3面の時期を明確に示す遺物を特定することは難しいが、出土遺物からは平安時代に属するものと推測される。

**第4面**：遺構は検出できなかったが、面を形成する暗褐色の砂質シルト層からは、古墳時代後期の須恵器を含む遺物が少数出土している。古墳時代後期以前の、湿地性堆積物であることは明らかであるが、水田として利用されていたか否かの判断には至らなかった。

### 【6区の調査】

第1面：柱穴・土坑・溝等を検出した。

調査区が狭小なため、遺構の評価は難しいが、土坑群のうちSK2は多量の瓦が出土したことから、廃棄土坑と思われる。SX9は、大型の廃棄土坑またはその重複したものの可能性がある。

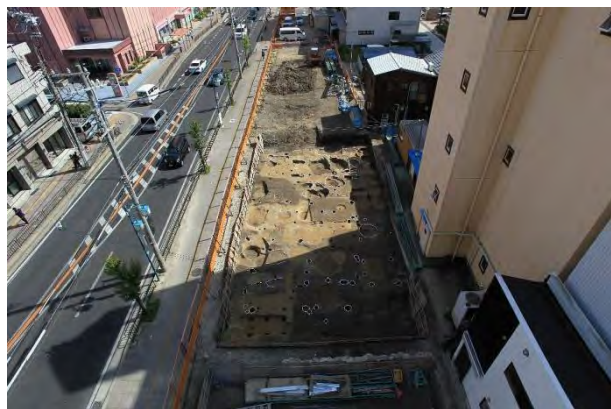
第2面：北北東～南南西方向にのびる鋤溝群と、これに直交する鋤溝群を検出した。これらの鋤溝群は、出土遺物から中世後半期に属するものと推定できる。なお調査区が狭隘で掘削に危険を伴うことと、第2面までで開発工事の影響深度内の調査を確保できたことから、以下の調査は実施しなかった。

### 3 まとめ

今回の調査では、江戸時代の明石城武家屋敷跡、中世後期の耕作地跡を調査できたほか、少量ながら弥生時代～平安時代後期に至る多様な時期の遺物を検出した。

第1面については、調査地が武家屋敷の裏庭を主体とする領域であったため、屋敷跡そのものは検出できなかったが、屋敷地境界の溝、廃棄土坑、井戸などの武家屋敷関連遺構を調査し、多数の遺物を回収することができた。第2面では、本遺跡における武家屋敷地造営以前の土地利用として、広い範囲が耕作地として利用されていたことが明らかとなった。

さらに奈良時代～平安時代には、調査地付近に集落が存在した可能性があること、古墳時代については調査地付近に低湿な環境が広がっていたこと、調査区から遠くない位置に古墳時代～弥生時代の集落が存在した可能性があること等が、第3面以下の調査によって明らかとなった。



4区西半第1面（空中写真：西から）



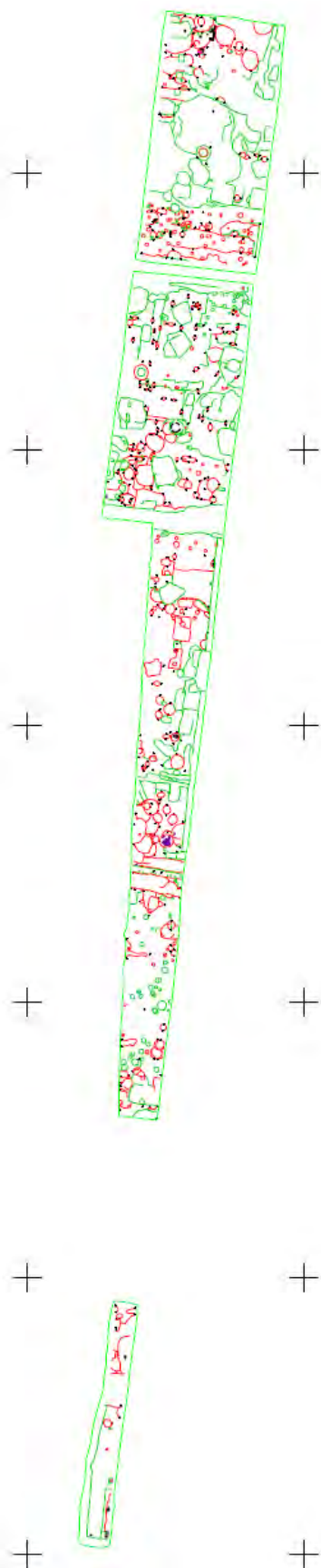
4区西半第2面（手前）・3区第1面（空中写真：東から）



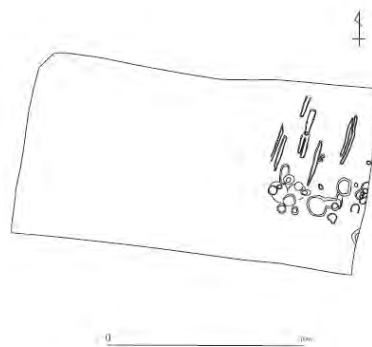
4区東半第1面（空中写真：西から）



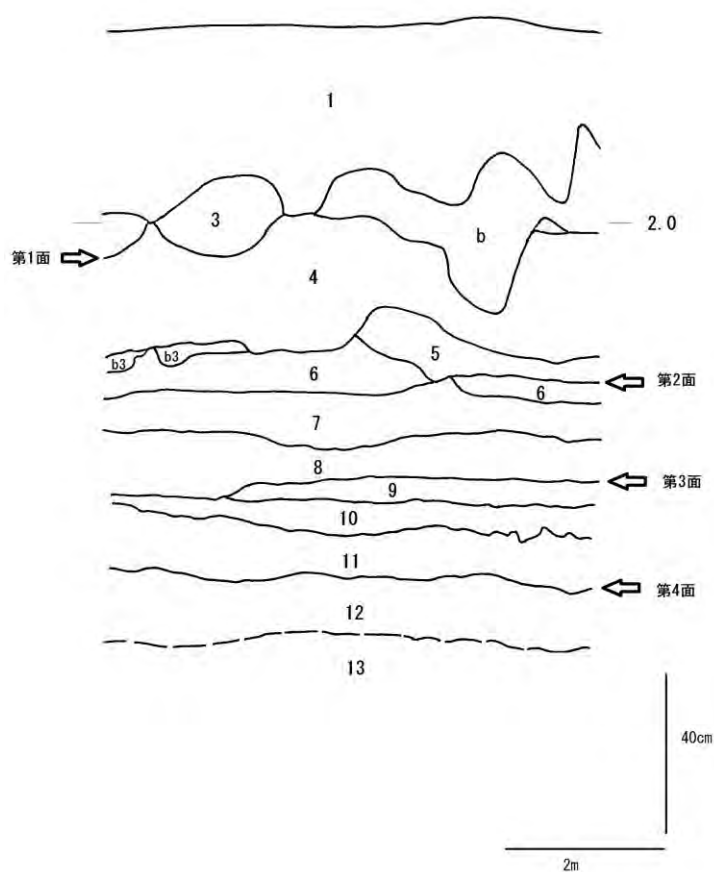
5・6区第1面（空中写真：西から）



第1図 3~6区第1面 (1/500)



第2図 1~2区第1面 (1/200)



第3図 明石城武家屋敷跡調査区標準断面図 (5区南壁)

- 1 近代～現代の盛土
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色極細砂～細砂 近世～近代の古土壌 (旧表土)
- 4 10YR4/2 灰黄褐色細砂～粗砂 径3cm以下の礫を含む 近世遺構面下を広く覆う洪水砂
- 5 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 全体に淡く酸化鉄が集積 4層堆積前の古土壌か
- 6 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト
- 7 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト やや土壌化している
- 8 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト
- 9 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 酸化鉄が強く集積
- 10 2.5Y6/3 にぶい黄色極細砂 11層上面を覆う洪水砂
- 11 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 土壌化している (水田土壌の可能性)
- 12 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト
- 13 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質極細砂 部分的にラミナが認められる





1・2区 胞衣壺断面（南から）



3区 SK65 埋甕（南西から）



4区 SX33 カマド基底部焼土面（北から）



4区 南西隅 SE354（北東から）



4区 SK101 遺物出土状況（東から）



5区 SD119 丹波焼甕出土状況（東から）



5区 SK121 遺物出土状況（北から）



6区 P2 瓦出土状況（東から）



かたやま  
3 片山遺跡

跡調査番号 2018038

所在地 加古川市八幡町下村  
事業者名 兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所  
事業名 東播磨南北道路北工区  
(主要地方道加古川小野線) 道路改築事業  
担当者 垣内拓郎・三好愛美  
種別 本発掘調査  
期間 平成 30 年 9 月 13 日  
～平成 31 年 1 月 25 日  
面積 1,329 m<sup>2</sup>



遺跡の位置 (「三木」)

### 1 調査に至る経過

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所は、加古川市八幡町下村において、東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業を行っている。当該事業地では、平成 28 年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査（遺跡調査番号：2016048）および加古川市教育委員会が行った平成 27 年度雁戸井土地改良区圃場整備事業に伴う確認調査の結果、遺跡が存在することが明らかとなったため、平成 29 年度に A 地区と B 地区（遺跡調査番号：2017004）を、今年度は C 地区の本発掘調査を実施した。

### 2 調査の概要

片山遺跡は、印南野台地の北西部に位置し、調査地である C 地区は、麓から約 25m 上った標高約 45 m の段丘縁辺に立地しており、北側段丘下には草谷川や加古川の氾濫原が広がっている。また、A・B 地区の約 50m 東方に位置する。

調査の結果、弥生時代末期～古墳時代初頭と平安時代後期の遺構を検出した。

#### 【弥生時代末期～古墳時代初頭】

竪穴住居跡 SH071、SH120、SH121 の 3 棟を検出した。調査区の東側で SH071 が見つかっており、そこから西側に約 10m 離れた調査区中央に SH120、SH121 が位置し、南北に隣接して見ついている。いずれの住居跡にも周壁溝が巡る。SH071 は、残存状況が悪く、周壁溝の北西隅の一部を確認できたが、平面形は少なくとも一辺約 2m 以上の方形を呈する可能性がある。柱穴等の関連遺構については検討を要する。SH120 は、平面形は直径約 7.5m の規模の円形を呈し、住居内で中央土坑（深さ約 35 cm）、その周囲に 4 基の支柱穴、そして高床部を検出している。高床部の南側の一部には焼土が広がっていた。SH121 は、住居の床面のほとんどが削られていたが、平面形が長辺約 5.5m、短辺約 4m の隅丸方形を呈する周壁溝を検出した。周壁溝内では、東西方向に並ぶ支柱穴 2 基と、住居中央の支柱穴の間に炭や焼土が残っていた浅い中央土坑を 1 基、さらにその南側に円形の土坑（深さ約 30 cm）を 1 基検出している。中央土坑からは溝 SD138・SD144 が北西に向かって周壁溝の外側に延びており、SH120 を南北に縦断する形で切っている。このことから、SH120 より新しく位置づけられ、SH120 から SH121 へ建て替えが行われた可能性がある。各住居跡の埋土からは、土師器の破片が僅かに出土している。

### 【平安時代後期】

多数の柱穴群を検出し、掘立柱建物跡 SB01～SB08 の 8 棟が復元できた。また土坑 1 基を検出した。

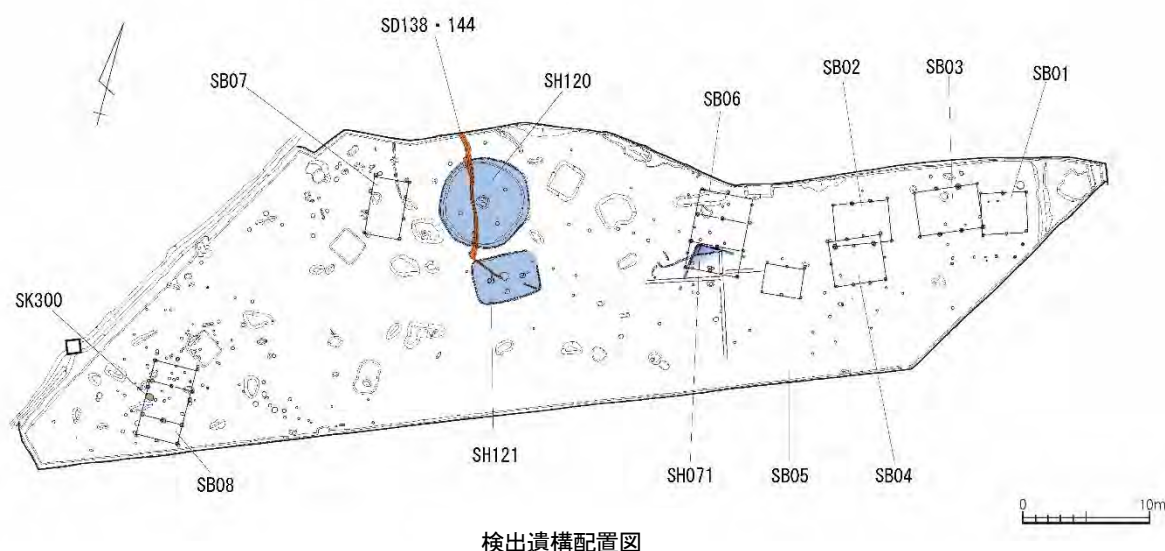
掘立柱建物跡は、重複して見つかったことから、何度かの建て替えがなされたと考えられる。建物には、軸が東西を指向する SB01～SB04 の一群と南北を指向する SB05～SB08 の一群とに分けられる。東西指向の建物には重複するものや、並列するものもあることから、さらに 2 時期にわたって建て替えが行われた可能性がある。また、SB08 の周辺には、柱穴が多数集中して見つかったことから、SB08 周辺にも別の掘立柱建物跡が存在すると考えられる。この 2 群の建物の併存関係について明らかにするためにはさらに検討が必要である。

土坑については、SK300 を調査区の南東端で検出した。SB08 と重なる関係にある。SK300 の平面形は楕円形（約 70 cm×50 cm）で、深さ 10 cm の皿状の土坑である。埋土からは 11 世紀後半頃の多数の須恵器の碗や土師器の碗・小皿がまとまった状態でみつき、「六」または「九」とみられる文字が墨書された須恵器の破片も含まれていた。土器の中には、ほぼ完形品に復元できるものが複数含まれており、単に廃棄されたものではない可能性がある。

### 3 まとめ

調査の結果、麓から約 25m 上った段丘縁辺の高台に弥生時代後期と平安時代後期の集落が存在していたことが明らかとなった。現代の造成時に削られてしまっている可能性もあるが、集落跡のなかでも遺構や出土遺物の量が少ないことから、同一場所に長期間に営まれた集落である可能性は低いと考えられる。

印南野台地の北西部周辺では、段丘上に東沢古墳群、天王山窯跡等、上西条地域に遺跡が多数確認されている。下村地域の西側段丘上では大日山遺跡の土器棺や下村古墳等が知られていたが、片山遺跡がある下村地域の東側段丘上については、これまで遺跡の具体的な内容は知られていなかった。今回の調査による集落跡の新たな発見は、印南野台地の開発の様子が分かるだけでなく、段丘下に広がり、片山遺跡と同時代に位置づけられる下村遺跡との関係性や、未だによく分かっていない加古川左岸域の弥生時代の集落の動態を解明するうえでも重要といえる。







調査区全景俯瞰写真（上が北）



調査区遠景（南から）



掘立柱建物跡群（東から）



SH120(奥)・SH121(手前) 全景（南から）



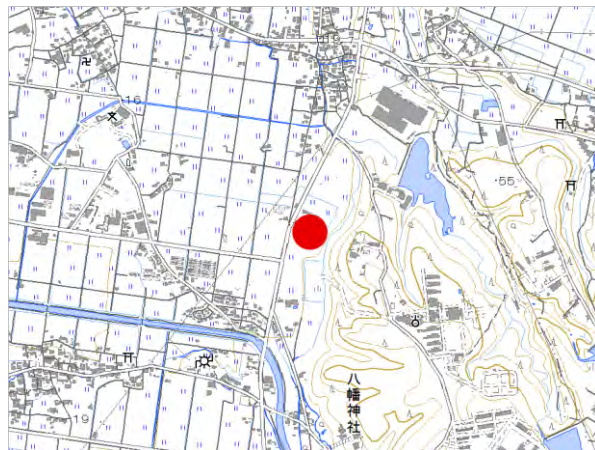
SK300 遺物出土状況（東から）



そうさみなみ  
4 宗佐南遺跡

遺跡調査番号 2018006・2018037

所在地 加古川市八幡町宗佐  
事業者名 兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所  
事業名 東播磨南北道路北工区  
(主要地方道加古川小野線) 道路改築事業  
担当者 篠宮 正・垣内拓郎・三好愛美  
種別 本発掘調査  
期間 【A地区】平成30年5月22日  
～8月10日  
【B地区】平成31年1月7日  
～1月25日  
面積 【A地区】1,624 m<sup>2</sup> 【B地区】126 m<sup>2</sup>



遺跡の位置(「三木」)

## 1 調査に至る経過

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所は、加古川市八幡町宗佐において、東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業を行っている。当該事業地では、平成28年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査の結果、遺跡が存在することが明らかとなったため(遺跡調査番号:2016157)、平成30年度に本発掘調査を実施した。なお、調査は既存建物移転の都合により2回に分けて実施した。

## 2 調査の概要

宗佐南遺跡は、加古川左岸中流部に位置し、埋没した扇状地が段丘化した完新世段丘に立地し、旧中州と旧河道が埋没している。現況は盛土や水田耕作土であり、土層の堆積状況から上層で確認した柱穴群以後は継続して水田を作り続けている様相が判明した。

調査により、2面の遺構を調査した。

### 【上層遺構検出面】

水田面の上層で検出した遺構である。本来はさらに上層で検出できた可能性が高い。検出した遺構は柱穴で北東部を中心にA地区で25基、B地区で37基の合計62基検出したが、これらの柱穴で構成する掘立柱建物跡は復元できなかった。柱穴の下部は堅い礫層上面まで掘っており、柱穴の埋土多くは、柱穴底面の礫層から噴き上がったシルトや細砂のラミナで、柱痕跡は残っていなかった。柱穴掘形から、平安時代から鎌倉時代の須恵器が出土している。

### 【下層遺構面】

下層遺構面を覆う砂礫層を除去し、水田面と水田畦畔を3条確認した。畦畔の延長方向はいずれも検出できていないため、一筆の面積は不明である。畦畔間の間隔はいずれも約11mである。畦畔の幅は1.0m前後であり、高さは25cm前後で、断面形は半円形をしている。水田畦畔の方向は東西方向で北から71度、西に振っている。水田畦畔で区画された水田面の標高は16.85m前後で高低差は認められない。

水田面・水田土壌からは、遺物は出土していないが、下層から時期不明の土器の小片が出土している。

### 3 まとめ

宗佐南遺跡は、2面の遺構を調査した。上層では平安時代から鎌倉時代の柱穴群を調査したが掘立柱建物跡を確認できなかった。柱穴掘形内には地震による噴砂の影響が確認できた。

下層で検出した水田の時期の特定はできていないが、畦畔の規模が大きく、畦畔間隔が約11mの等間隔であり、平坦地に作った水田であり、事から古代の条里地割に関する畦畔の可能性が高い。この畦畔は1町（約109m）四方の坪を縦に十等分した長地型の地割の一部であると考えられる。



A地区空中写真（上が北）



A地区水田畦畔（東から）



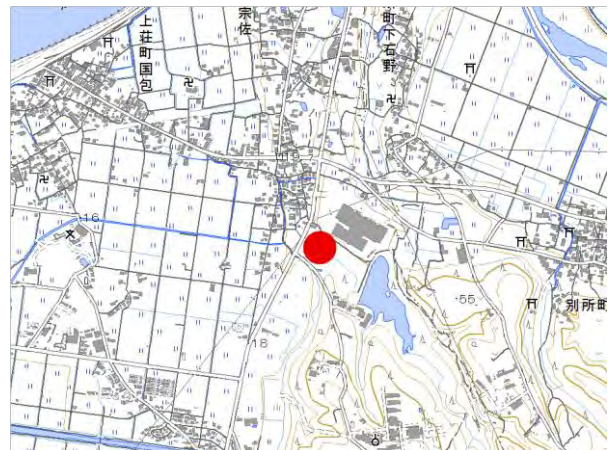
A地区水田畦畔土層断面（西から）



## 5 宗佐遺跡

遺跡調査番号 2018005・2018036

所在地 加古川市八幡町宗佐  
事業者名 兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所  
事業名 東播磨南北道路北工区  
(主要地方道加古川小野線) 道路改築事業  
担当者 篠宮 正・垣内拓郎・三好愛美  
種別 本発掘調査  
期間 【C地区】平成30年4月10日  
～8月10日  
【D地区】平成30年9月13日  
～平成31年1月25日  
面積 【C地区】1,833 m<sup>2</sup> 【D地区】1,479 m<sup>2</sup>



遺跡の位置(「三木」)

### 1 調査に至る経過

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所は、加古川市八幡町宗佐において、東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業を行っている。当該事業地では、平成28・29年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査(遺跡調査番号:2016157・2017058)の結果、遺跡の存在が明らかとなったため、平成29年度にA・B地区(遺跡調査番号:2017063・2017093)の本発掘調査を実施した。そして、平成30年度には、上半期にC地区の本発掘調査(遺跡調査番号:2018005)を実施した。また、C地区の南北の確認調査(遺跡調査番号:2018007)も実施して遺跡の調査範囲を確定し、下半期にはC地区の北側に隣接してD地区の本発掘調査(遺跡調査番号:2018036)を実施した。

### 2 調査の概要

宗佐遺跡は、印南野台地の中位段丘面の開析谷に形成された、緩やかに傾斜する扇状地上に立地する。今回調査した宗佐遺跡C・D地区は、台地の北側に西に向かって深く刻まれた小開析谷の入口部分にあたり、開析谷中にみられる支流性扇状地の西端付近に立地する。調査区の北側には、現地表との比高約6mの段丘崖があり、南側は谷由来の扇状地が形成する小段丘の縁辺部となっている。また、東側には、谷奥からの水を塞ぐように高さ約4～6m、東西幅約20m、南北長約94mの盛土堰堤が造成されている。

今回の調査区での基盤層(地山層)は、黄褐色のシルト質砂礫やシルトなどからなる大阪層群(または神戸層群)である。その上位に砂礫を主体とする、埋没した旧中州堆積物が広がり、さらにこれらを覆うように土壌化した暗黄褐色のシルト質砂が堆積し、この上面が遺構検出面となる。調査区中央には、東の谷奥から西に向けて流れる旧河道が埋没しており、複数の流路が流向を変えつつ重なる様子が主に調査区東壁・西壁断面で確認できた。流路は下層を削りながら西側に幅広く堆積し、古流向は南西側に深くなる傾向にある。流向の変化によって、調査区西側の流路縁辺に部分的に取り残された埋没流路の上部には窪みが形成され、その上部の堆積物が土壌化し、主に弥生時代後期末～古墳時代初期と平安時代の二つの遺物包含層が形成される。これらの包含層は、基本的に調査区西側に残存しており、各除去面を第1面、第2面として部分的に調査を実施した。

C・D地区の調査では、第1面、第2面をあわせて弥生時代後期末以前、弥生時代後期末～古墳時代初期、平安時代後期、中世、中世以降の遺構を検出した。以下に、主な遺構について記述する。

#### 【弥生時代後期末以前の遺構】

自然流路跡とそれに関連する溝を検出した。

自然流路跡は、C地区で390流路、関連遺構としてSD381を検出している。390流路は旧中州堆積物を削っており、その上部東縁辺にSD381が位置する。SD381からは出土遺物は無く、流路埋没の最終段階に流路縁辺の窪みに堆積して土壌化した砂質土層の可能性がある。いずれも、弥生時代後期末～古墳時代初期の遺物包含層を除去した面で確認できたが、遺物の出土がなく埋没時期は詳細不明である。

#### 【弥生時代後期末～古墳時代初期の遺構】

竪穴住居跡、土坑、自然流路跡を検出した。

竪穴住居跡はC地区で5棟、D地区で3棟検出した。住居跡の平面形は、C地区では円形1棟(SH156)、方形3棟(SH179・SH180・SH201)、多角形1棟(SH193)、D地区では方形3棟(SH012・SH165・SH166)が確認できた。C地区で検出した円形のSH156は比較的残りもよく、張り出し部も確認できたが、殆どの住居跡は後世の流路や後世の耕土造成によって削られていた。C地区のSH193に伴う壁際土坑SK376、SK375からは完形の土師器小型器台や土師器破片がまとまって出土し、SH179の壁際土坑SK355からは土師器丸底壺が出土した。

土坑は、C地区でSK132を検出しており、完形の土師器の小形直口壺が出土した。

自然流路跡は、C地区で389流路を調査区中央北側で検出した。そのほとんどが、後述する001流路を主として後世の河道の移動によって削られて、局所的に残存するのみである。

#### 【平安時代後期の遺構】

溝と自然流路跡、不明遺構を検出した。

溝は、C地区でSD249を検出した。SD249は、南北を指向するが、北端部については検出できなかったが、南側はSH201を切って南側調査区外へと続く。谷川からの引水や排水の機能を有していたと考えられる。須恵器や土師器の椀が複数まとまって出土しているほか、古代瓦の破片も出土した。

自然流路は、D地区で160流路を検出した。160流路は、谷の中央を流れる旧河道の一部で、須恵器破片等が流路肩部や埋土から多数出土しており、当時の谷川埋土が部分的に残った可能性がある。

不明遺構は、SX203を検出した。河川の移動により形成された窪み堆積した土に遺物が含まれる遺構で、須恵器鉢や甕、等の大きな破片がまとまって出土した。

#### 【中世の遺構】

掘立柱建物跡、柱穴群、自然流路跡を検出した。

掘立柱建物跡は、C地区でSB01・SB02・SB03の3棟を復元できた。SB03(1間×3間)の柱跡のいくつかはSD249を上部から掘り込んでいた。

柱穴群は、C・D地区で複数検出しており、調査区の中央に分布する傾向にある。これらの柱穴については、建物の組み合わせを復元できなかったが、掘立柱建物の建て替えがあったことが推測される。

自然流路跡は、001流路を検出した。001流路は、最大幅約8m、最深部約2.2mの規模となる。001流路は、谷の中央を東から西へ流れ、調査区東側で北西方向に、調査区中央部の東寄りあたりで南西方向に流れをかえる、蛇行流路となっている。埋土の堆積物は、大礫～中礫が多く含まれる砂礫層であり、大規模な洪水によって谷奥から供給された土砂によって短期間に埋没したとみられる。埋土からは、弥

生土器や古代～中世の須恵器、古代瓦、中世の土師器羽釜の破片等が含まれるほか、最も新しいもので16世紀後半頃の土師器鍋や備前焼・丹波焼等が出土しており、埋没時期はこの頃に求められる。

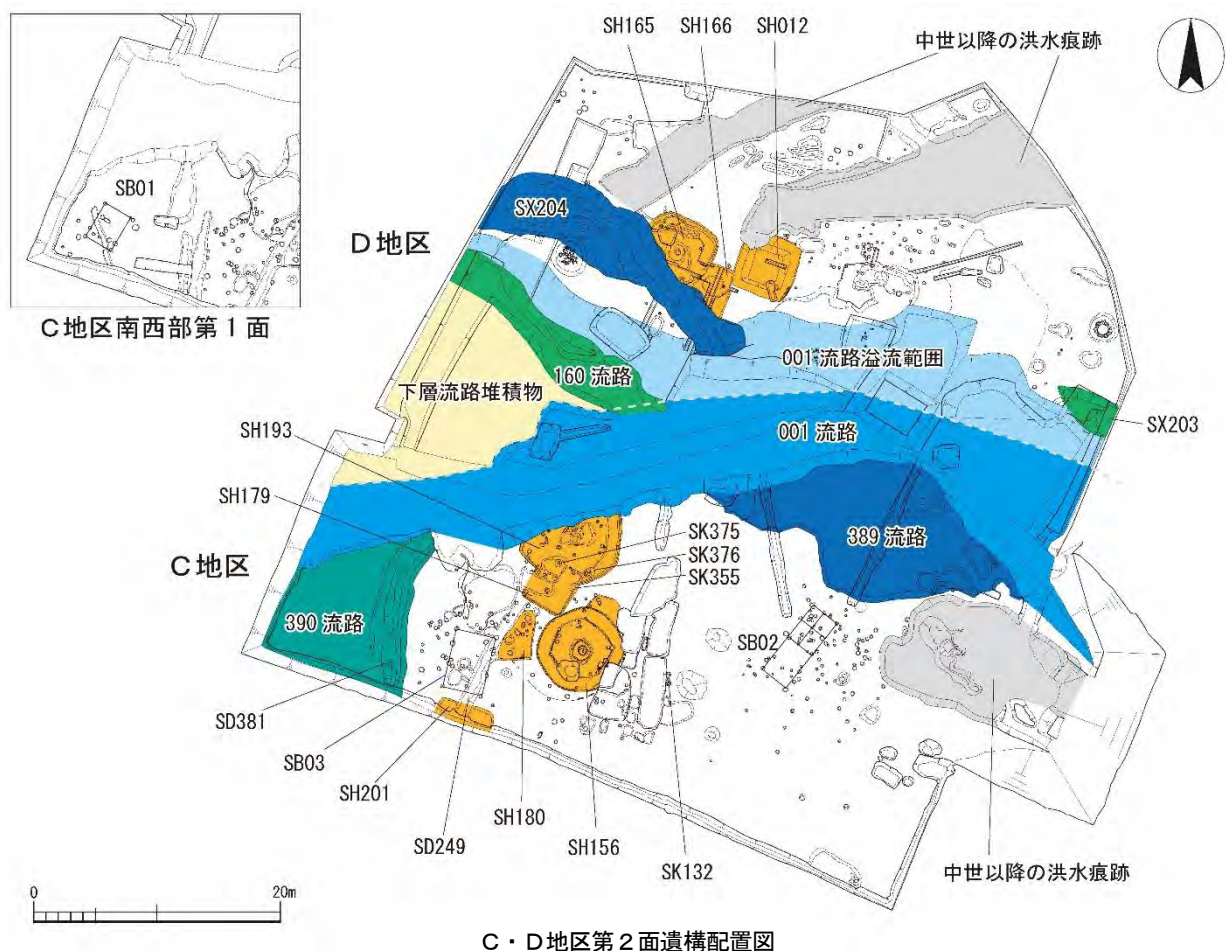
### 【中世以降】

001 流路の埋没後には、地層観察からその上部には耕作地が形成され、調査区東側の盛土堰堤が造成されている。耕作地化した後には、埋没流路上部に井戸が複数基掘削されている。また、流路埋没土上層からは、胞衣壺とみられる土師器壺が二組並んで出土しているほか、近くからは底部に墨書をもつほぼ完形の備前焼船徳利も見つかっている。なお、C・D地区の東側や北側には局所的に砂礫が分布しており、いずれも盛土堰堤の造成前後に発生した洪水により供給された氾濫または溢流堆積物とみられる。

## 3 まとめ

C地区・D地区の調査の結果、谷の中央を流れる旧河道を検出し、その両岸には弥生時代後期末～古墳時代初期、平安時代後期、中世の集落が広がることが明らかとなった。また、河道は流向を変えながら最終的に16世紀後半に洪水によって埋没する。そして埋没後には、耕地化され、谷奥からの洪水を防ぐように盛土堰堤が築造される。以上のことから、水害に遭いながらも人々が谷川の近くで生活が連綿と営まれる様子が明らかとなったといえる。

なお、今回の調査によってA・B地区と同時期の集落がさらに北側にも広がることが分かったが、A地区で検出した官衙的な性格が推測される遺構の検出はなかった。しかしながら、C・D地区からも僅かではあるが古代瓦の破片が出土している点は注目される。







調査区遠景（南西から）



C地区 SH156 全景（南から）



D地区全景俯瞰（上が東）



C地区全景（西から）



D地区 001 流路調査区東壁断面（西から）



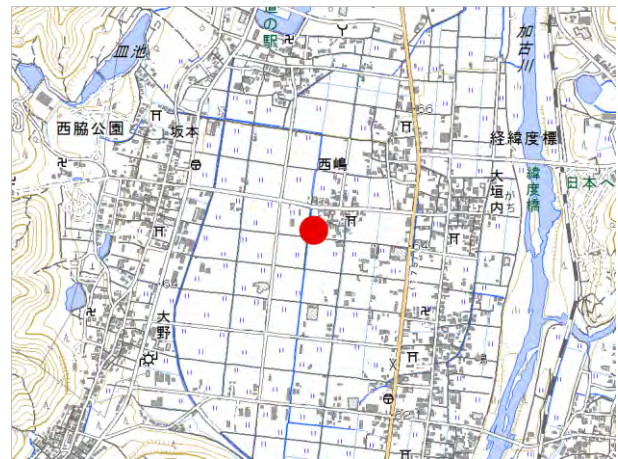
C地区 SK375 遺物出土状況（南から）



## つ ま 6 津万遺跡群

遺跡調査番号 2018015

所在地 西脇市西嶋  
事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
兵庫国道事務所  
事業名 一般国道175号西脇北バイパス事業  
担当者 岸本一宏・松崎光伸  
種別 本発掘調査  
期間 平成30年12月3日～平成31年1月31日  
面積 896 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「中村町・谷川・西脇・比延」）

### 1 調査に至る経過

事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である「津万遺跡群」が存在し、兵庫県教育委員会では平成20年度から本発掘調査を実施してきた。今回、未調査であった西嶋4W区について本発掘調査を実施した。

### 2 調査の概要

検出した遺構は弥生時代～近世にわたる各時代のもので、狭い調査面積にもかかわらず300基近い数の遺構を検出したが、大半を占めるのは柱穴で、平安時代後期以降のものと推定される。検出した主な遺構には溝、竪穴住居跡、木棺墓、掘立柱建物跡があり、時代別に述べると以下ようになる。

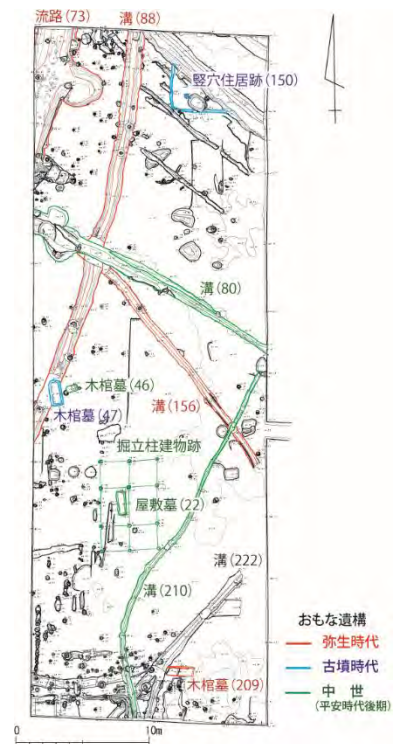
#### 【弥生時代の遺構】

最も古いものは溝（156）で、中期前葉（Ⅱ期）の土器が出土した。また、中期末（Ⅳ期）の土器が多量に含まれていた溝（88）は溝（156）を切るかたちで重複している。北西隅で検出した流路（73）からは中期末の土器のほか、後期（Ⅴ期）末頃の土器も多く出土していることから、その時期にほぼ埋まったと考えられる自然流路である。

南部で検出した木棺墓（209）は長さ約2.2mで、長側板をはめ込むための溝が掘られていたことから、弥生時代の所産である可能性が高いが、時期を確定できる遺物は出土していない。

#### 【古墳時代の遺構】

時期が明確なのは調査区北東部で検出した竪穴住居跡（150）である。半分以上が谷部によって後世に削り取られていたが、南西隅の柱穴を検出したことから、4本柱と推定され、東西規模4.3m以上の方形であったことが推定できる。内部に規模が小さく高床部をもつ住居跡を検出したが、南西隅の柱を共有していることから、増築する前の住居跡と判断される。出土土器は小片であるが、古墳時代後期と推定される。



調査区全体図



古墳時代竪穴住居跡（150）（東から）



平安時代掘立柱建物跡・屋敷墓（22）（東から）

調査区西部で、溝（156）が埋まった後につくられた木棺墓（47）は、時期を決定できる遺物は出土しなかったが、古墳時代のものと推定している。棺長は約1.6mで主軸は南北方向である。

#### 【平安時代後期（11～12世紀）の遺構】

掘立柱建物跡と木棺墓、溝を検出した。掘立柱建物跡は、南北3間（約6.8m）、東西2間（約4.2m）の小規模な総柱建物跡であるが、南北方向の中央部の柱間が広がっている。建物跡ほぼ中央部の床下で木棺墓（22）を検出した。建物跡と同一の主軸方向であることから、「屋敷墓」と呼ばれる、子孫の守り神として祀られた先祖の墓であると判断できる。棺長は約1.65mを測る。

調査区西部中央で検出した木棺墓（46）は、棺長65cmと小規模なものであったが、底板の一部や側板を抑えるための配石のほか、漆器の漆膜を検出した。規模から小児未満の子供の墓と推定される。

溝のうち平安時代と確定できるものには、調査区中央部の南北方向に近い溝（80）と、南東部の南北方向に近い溝（210）がある。そのほか、溝（210）の南部周辺に存在する溝や、調査区北東隅の谷部も近世溝を除いて当該時期の可能性はある。

また、調査区西部および南西部で検出した多くの柱穴は平安時代を中心とした所産と想定され、江戸時代以降のものも南西部に少量存在していた。

### 3 まとめ

平成21年度に調査した西嶋4E区の調査区内西部では、東部に比較して遺構の数が少なくなっていたが、西嶋4W区の本調査の結果、調査前の予想に反して多数の遺構を検出した。また、調査区西部で遺構が多く検出されたことから、西側が微高地になっていたことが推察される。特に南西部では、平安時代前期の土器を含む浅い落ち込みをはじめ、多くの遺構が集中して存在していたことは、さらに南側に遺構が続いて存在することが予想される。遺構面は黄褐色系の粗粒シルト～極細粒砂が主体で、南西隅以外は同一面で各時代の遺構を検出した。また、弥生時代の自然流路（73）は深さ約60cmで流路底は礫層となっていたが、調査区南部では下層の砂礫層が部分的に遺構面に露出していた。

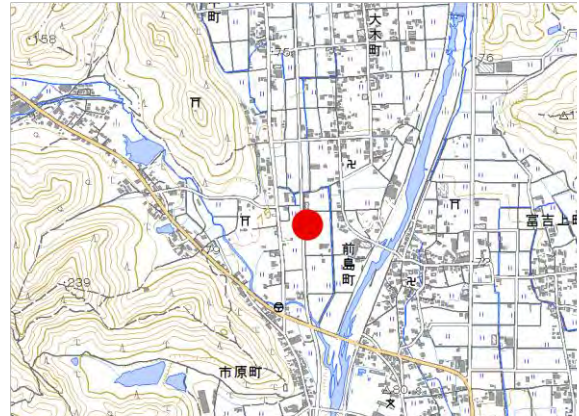
弥生時代木棺墓（209）は西嶋4E地区でも長側板の溝を有する2基が存在し、同時期の弥生時代の所産と推定される。古墳時代は後期の方形竪穴住居跡（150）があり、拡張をおこなったことが判明した。

平安時代後期（中世）の遺構のうち屋敷墓がある掘立柱建物跡は、柱間が均一でないことから、単なる住居ではなかった可能性がある。また、調査区北東隅に存在した谷部は西嶋4E区で検出していた谷部の続きで、平安時代後期に埋まりはじめ、最後は幅約1.2mの溝となって圃場整備前まで存在していたものである。



## 7 前島・検上田遺跡

所在地 西脇市前島町  
 事業者名 兵庫県北播磨県民局加東土木事務所  
 事業名 (一)中安田市原線交差点改良事業  
 担当者 村上泰樹・西山昌孝  
 種別 本発掘調査  
 期間 平成30年7月3日～8月30日  
 面積 540 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「中村町」）

### 1 調査に至る経過

兵庫県北播磨県民局加東土木事務所では、(一)中安田市原線交差点改良事業を進めている。事業地の北側（西脇市施工部分）には、周知の埋蔵文化財包蔵地「野中・国影遺跡（県遺跡地図番号140008）」が近接することから、平成30年1月に兵庫県教育委員会が確認調査を実施した（遺跡調査番号2017102）。調査の結果、事業地内で溝などの遺構を確認し、遺跡が存在することが明らかになった（平成30年3月20日付 兵考第1578号で回答）。兵庫県教育委員会は兵庫県北播磨県民局加東土木事務所と遺跡の取り扱いについて協議し、北播磨県民局長よりの平成30年5月10日付 北播(加土)第1084号に基づき本発掘調査を実施した。



調査区全景（南から）

### 2 調査の概要

遺跡は西脇市北西部の前島町に位置し、この付近を南流する杉原川西岸域には河岸段丘が発達し、さらに西側の山沿いの谷部には扇状地が形成されている。この扇状地上には野中・国影遺跡等の弥生時代、古墳時代、飛鳥～奈良時代の遺跡が立地する。前島・検上田遺跡も大木町集落付近から前島町域に向かって発達した扇状地の先端部に立地する。

調査の結果、遺物包含層を除去した段階で、古墳時代～奈良時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、ピット群、土坑、溝を検出した。

#### 【遺 構】

遺構は竪穴住居跡1棟（SH01）、掘立柱建物跡1棟（SB01）、ピット群、土坑3基（SK01～SK03）、溝5条（SD01～SD05）を検出した。

#### 竪穴住居跡（SH01）

調査区の中央部西寄りで検出した。住居跡の西側部分は調査区外に及んでおり、住居跡東側部分のみ

を検出した。SH01上を切り込んで2度の建て替えがある。

SH01の規模は、南北方向3.4m、東西方向は1.2m以上、検出面からの深さは17cm前後で、周囲には壁溝が巡る。住居跡の平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈していると考えられる。2度の建て替えはやや軸方位を変えている。遺構面はSD03からの溢流により大きく攪乱されていた。

遺物は古墳時代後期後半の須恵器杯が出土した。

#### 掘立柱建物跡（SB01）

調査区の南端部に位置する。棟軸方位を南北方向にもつ2×3間の側柱建物である。建物は10個の柱穴で構成されている。柱穴の平面形は40cm×30cm前後の楕円形を呈し、柱間は桁行方向1.5m～2m、北辺の梁行方向2m前後、南辺が1.4m～2mで南辺の中央柱穴が西寄りに位置している。建物の規模は桁行6m前後、梁行3.5mの規模で、棟軸方位はほぼ南北方向を向く。

遺物は柱穴掘方内より奈良時代の土師器甕片や須恵器杯蓋が出土している。

#### ピット群

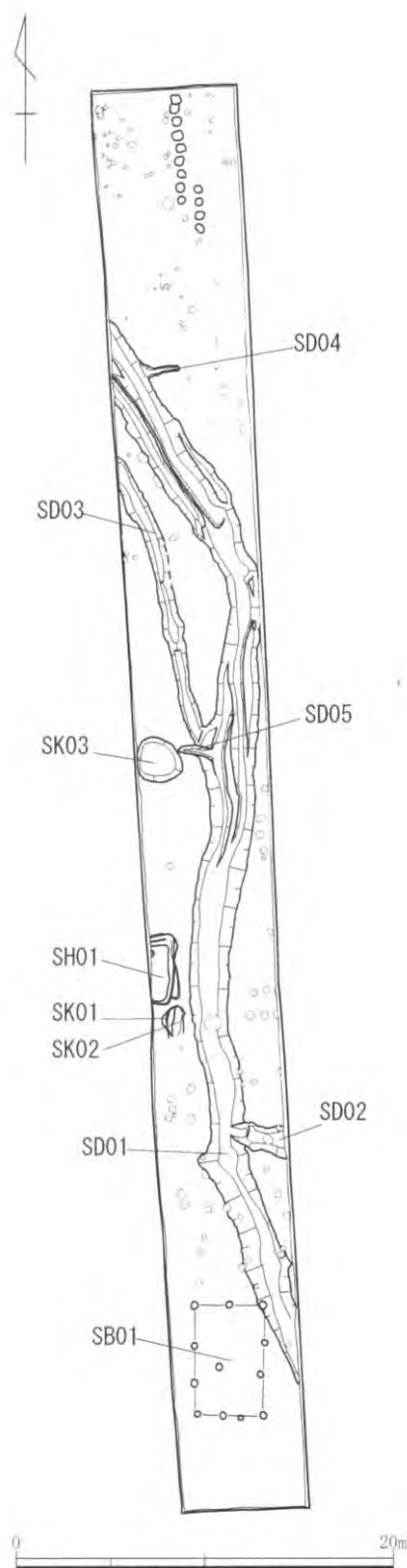
全体で130個余りのピットを検出した。このうちSB01のように建物として識別できたものや、柱痕跡が確認され柱穴と認定できるものもあるが、大半はその性格が不明である。調査区北端部では一辺50cm前後の方形ピットが南北方向に二列並ぶ形で検出した。いずれのピットも深さ5cm程度と浅く柱痕はなかった。両柱列の柱間は70cm前後と狭く、約1mの間隔で並ぶ。この柱列の性格は不明である。

また調査区南部のピット群のなかには明瞭に柱痕が確認され中世土器が出土したものもあり、この付近に同時期の掘立柱建物が存在した可能性がある。

#### 土 坑（SK01～SK03）

SK01・SK02は中央付近、竪穴住居跡の南東側に近接して検出した。両土坑は重複しており、SK01が新しい。SK01は1.61m×0.55mの南北方向に細長い楕円形の土坑で深さは15cmである。土坑内には古墳時代後期後半頃の須恵器甕・杯が出土した。SK01に切られているSK02は1.6m×0.8m以上のいびつな楕円形を呈している。深さは20cmである。

SK03は調査区の中央部西寄りに位置し、2.5m×2.3mの円形の土坑である。土坑の断面形は皿状を呈し深さは40cmである。遺物は古墳時代後期後半の須恵器杯蓋と身がほぼ完形の状態で出土した。



調査区全景（南から）

### 溝 (SD01～SD05)

調査区の北西部から南東方向に流れる流路と考えられる溝である。SD02、SD04、SD05は約20m間隔でSD01に連結し、SD03はSD01埋没後に流れた溝である。

SD01は幅2m～3m、深さは40cm前後である。溝内の北半部では2条の溝跡痕があり、少なくとも二時期の堆積が認められる。

SD01の南側付近の東肩部にはSD02が取り付く。規模は幅1.5m、深さ30cmである。SD03はSD01の西側を北西部から南方向に流れる溝で、調査区中央付近で埋没後のSD01の上を流れた土石流である。

遺物はSD01から古墳時代後期後半から奈良時代の須恵器片が出土している。また弥生時代中期の甕・壺やサヌカイト片も含まれている。SD02からはわずかに須恵器碗が出土している。

#### 【出土遺物】

包含層および遺構から弥生土器、古墳時代後期後半から奈良時代・平安時代の須恵器、中世の須恵器、輸入陶磁器の他サヌカイト片、鉄釘などが出土している。包含層は4層に分かれる。上層の包含層は、遺物の出土が希薄であるが古代～中世の須恵器片が目立つ。中層の包含層は奈良時代および平安時代末から鎌倉時代の須恵器こね鉢、室町時代前期の中国製青磁碗などが出土している。下層の包含層は弥生時代中期・古墳時代後期～奈良時代・平安時代の土器を含む。最下層の包含層は古墳時代後期後半土器が主体で、これに奈良時代や弥生時代中期の遺物が混ざる。



SH01 (東から)



SB01 (南から)

### 3 まとめ

今回の調査で竪穴住居跡 (SH01)、掘立柱建物跡 (SB01)、土坑 (SK01～SK03) で構成される集落の存在が明らかになった。時代的には古墳時代後期後半を中心とした時期を考えている。溝SD01、SD02、SD04、SD05は平安時代頃には埋没したと思われる、配置から条里遺構の可能性はある。

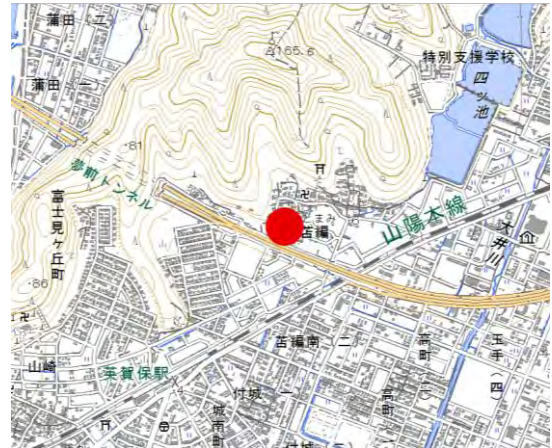
また包含層および遺構内より出土した弥生時代中期の土器は比較的大型の破片で、摩滅も少ないことから、調査区周辺に同時期の遺構が存在する可能性が高い。



## いけのした 8 池ノ下遺跡

遺跡調査番号 2018013

所在地 姫路市苜編  
事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
姫路河川国道事務所  
事業名 一般国道 2 号姫路バイパス改築事業  
担当者 西口圭介・乗本愛実  
種別 本発掘調査  
期間 平成 30 年 6 月 29 日～9 月 6 日  
面積 248 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「姫路南部」）

### 1 調査に至る経緯

一般国道 2 号姫路バイパス改築事業では平成 19 年度に対象地の一部について、英賀保遺跡第 4 地点として本発掘調査を実施している（遺跡調査番号：2007107）。平成 30 年度は、姫路河川国道事務所からの依頼を受け、本調査を実施した。調査区は、西側には平成 19 年度の調査地点 2 区、東側には同調査地点 1 区が隣接する。なお、北側に隣接する民家への出入り口を確保する必要が生じたことから、調査区を C-1 地区と C-2 地区に分割し調査を行った。

### 2 調査の概要

#### 【C-1 地区の調査】

調査区は扇状地の末端にあたる。調査の結果、埋没した旧河道の凹みと水田畦畔の痕跡を検出した。

**埋没旧河道：**旧河道の凹みは幅 3m・深さ 0.4mの浅い皿状の流れに黒褐シルトが堆積したもので、調査区西半部において、北東から南西に帯状に検出した。この帯状の変色は、旧河道が埋没した最上部の窪みを黒褐色シルトが被覆して形成されたものである。旧河道の幅は 13m前後であったと考えられ、北東から南西に走っていることが調査区南北両壁の精査によって判明した。この旧河道は、黒褐シルトから弥生時代中期の摩滅した土器片が出土している。

**水田畦畔痕跡：**水田畦畔は旧河道窪み堆積した黒褐色シルトの上面に痕跡が残ったものである。東西南北に小畦畔の痕跡を検出した。概ね方位を N35°E にとる。上層の灰褐シルトに伴うものと考えられるが、重複があり、個別の水田区画の規模は不明である。灰褐シルトには若干、古代の須恵器が含まれており、水田の時期は古代以降であると考えられる。

C-1 地区からは上記の遺構以外に、不定形な浅い落ち込みを幾つか検出した。これらは、水田に伴う起耕痕や樹木の根痕と考えられるが、明確にはできなかった。

#### 【C-2 地区の調査】

調査区は扇状地の末端にあたる。調査の結果、江戸時代の溝、奈良時代のピット、弥生時代末の粘土採掘坑群、時期不明の 2 方向の水田畦畔痕跡を検出した。

**弥生時代末の粘土採掘坑群**：調査区北西部を中心に 16 基の不整形土坑を検出した。これらの土坑は人為的に埋めており、SX212 の土坑底からは弥生時代末の甕片が出土している。各土坑は粘土採掘坑と考えられる。この土坑群は西側に隣接する平成 19 年度の 1 区で調査した粘土採掘坑群の東端に当たる。土坑群の西端は平成 29 年度 A 地区の東端において確認している。

**奈良時代のピット SX216**：調査区中央北より検出した卵形のピットである。奈良時代の須恵器杯蓋片を検出し、その直下より柱痕を検出した。対になるその他の柱穴は検出できなかった。同時代の遺物としては、墨書須恵器杯身片が出土している。

**江戸時代の溝**：調査区西端において南北方向に走る溝 2 条を検出した。SD202 からは 18 世紀代の肥前系染付磁器が出土している。現在の用水路に並行しており、同様の性格をもっていたと考えられる。

**水田畦畔痕跡**：遺構面上の酸化鉄の集積状況により二種の畦畔痕跡を検出した。一種は N17°E に方位を持つもので、長方形を企図しているようである。調査区東半の極一部で検出できた。もう一種は N75°E に方位を持つもので、畦畔の幅が広く、不整形である。旧地形に沿って水田区画を営んだものと考えられる。両者とも時期は不明であるが、前者は平成 29 年度調査の A 地区の上層、後者は下層の様相に近い。

### 3 まとめ

C-1 地区では・弥生時代中期に埋没した旧河道・時期不明の水田畦畔痕跡を検出した。C-2 地区では、弥生時代末の粘土採掘坑群・奈良時代のピット・時期不明の水田畦畔痕跡を検出した。粘土採掘坑は過去の調査結果を勘案すると、東西方向約 80m の範囲に広がることが判明した。

旧河道は、平成 19 年度の調査によって北方から南流し、分岐して C-1・C-2 両地区に至ると推測されており、C-1 地区ではその延長が確認できた。C-2 地区では確認できなかったが、粘土採掘坑 SX212 の壁面に砂層が出現しており、下層に旧河道が存在する可能性が高い。



調査区遠景（北西から）





C-1 地区全景（北から）

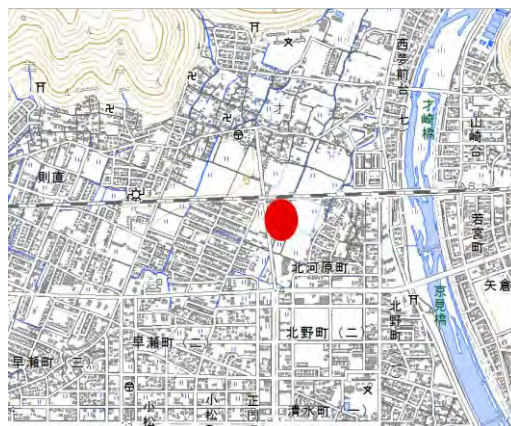


C-2 地区全景（北から）

## 9 郷着遺跡

遺跡調査番号 2018016

所在地 姫路市広畑区才  
事業者名 兵庫県中播磨県民センター  
姫路土木事務所  
事業名 (一) 広畑青山線社会資本整備総合交付事業  
担当者 久保弘幸・西口圭介・乗本愛実  
種別 本発掘調査  
期間 平成30年9月20日～平成31年2月20日  
面積 4,834 m<sup>2</sup> (A地区 2,004 m<sup>2</sup>・B地区 1,838 m<sup>2</sup>  
・C地区 992 m<sup>2</sup>)



遺跡の位置（「姫路南部」）

### 1 調査に至る経緯

中播磨県民センター 姫路土木事務所では(一) 広畑青山線社会資本整備総合交付事業を計画している。今回、中播磨県民センター長より平成30年6月7日付 中播(姫工)第5056号による依頼を受けた県教育委員会の委託により、本発掘調査を実施した。

### 2 調査の結果

調査を実施した地点には、調査前には水田が広がっていた。遺跡はなだらかに南へ伸びる扇状地に位置している。調査の結果、微高地上に集落が立地しており、埋没した古い旧河道部分の上には溝や水田が営まれていたことが判明した。調査範囲は、南北180mにわたり、JR山陽本線沿いをA地区、里道を挟んだ南側をB地区、B地区西側の用水路沿いの旧アスファルト敷をC地区とした。

#### 【A地区の調査】

古墳時代前期の方形竪穴住居跡や大溝、弥生時代後期の楕円形住居跡と旧河道跡が見つかった。

#### 古墳時代前期の遺構

・**竪穴住居跡** 6棟見つかった。住居跡は長辺4.5m前後、短辺4m前後の長方形で構成され、1棟はやや小型の住居跡が存在する。6棟の住居跡は何れも2本の東西大溝の間に営まれ、一列に位置している。SH1002a、SH1013aとSH1095aはいずれも長方形プランをもち、中央に1.5mの間隔を空けて2個の支柱穴をもっている。

・**大溝跡** 古墳時代前期の大溝跡は北端でつながっていないが、元々は二又に分岐し、東西溝に分かれていた可能性がある。これらの溝は下層の旧河道に起因するが、数度、掘り直しが行われており、管理されていることから大溝とした。

・**祭祀土坑** 大溝からは土坑が3基見つかった。うち2基からは木製品が出土している。これらの土坑はすべて大溝の底に掘られており、井戸や水に係わる祭祀土坑であった可能性が考えられる。

土坑SK1138aはSD1001aより検出された。長軸75cm・短軸65cm・深さ約50cmを測る楕円形の土坑である。底面は丸みを帯びる。土坑底近くより、木製品 机(案)の脚が出土している。

土坑SK1092aはSD1069aより検出された。形状は円もしくは不整な隅丸方形、箱形に掘られ、底面は平で、径約80cm・深さ約65cmを測る。土坑底近くから、ほぞ穴を開けた板材が出土している。



### 弥生時代後期の遺構

・**竪穴住居跡 SH1014a** 古墳時代前期の住居によって、一部を損壊されており、東西長約 6.3m、南北長 4.3m以上の楕円形であったと考えられる。

・**旧河道 SR1173a** 幅 7m・深さ 1m前後の大きさで、総延長約 65mを調査した。河道は調査区の北東隅より出現し、蛇行した古墳時代前期の西溝と重複して西から南方向へ流れる。一部に多数の杭列・部材が認められ、井堰が造られていた。また、下流にも複数の落ち込みを伴う箇所があり、完形の弥生時代末の甕が出土している。この部分にも堰があった可能性が考えられる。また、河道内からミニチュア土器を含む多量の土器が出土している。近隣に同時代の集落が存在する可能性が高いと考えられる。



A 地区全景（上空から北方をのぞむ）



A 地区 切り合う住居跡群（西から）



祭祀土坑 SK1138a 机の脚部出土状況

### 【B・C 地区の調査】

B・C 地区は一連の調査区としてまとめて述べる。弥生時代後期から古墳時代前期の溝、6 世紀代の竪穴住居跡や土坑、古墳時代の水田区画、平安時代初めころの掘立柱建物跡 2 棟と井戸 2 基・畑跡そして調査区の北端から条里型地割に伴う溝が見つかった。

### 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構

・**円形周溝墓状の溝 SD1143 c** C 地区南西隅から幅 1mほどの溝を半円形に検出した。西半部は調査区外に伸びており、内径 9.5mほどの円形に巡っていた可能性がある。円形周溝墓の可能性はある。

・**溝跡** B 地区・C 地区の南半に弧を描いて走る弥生時代後期から古墳時代前期にかけての溝を 8 条以上検出している。これらの溝は幅 1m～2m前後を測る。何れも水田耕作に伴う用水路であったと考えられ、大きくは古墳時代前期と弥生時代後期の 2 時期に分かれる。これら北北西から南南東へ流れる溝は調査区の西側に想定される旧河道から分岐したものと考えられ、溝肩に小規模な畦畔を伴うものや溝が埋没した部分に畦畔が営まれているものもある。

（古墳時代後期の竪穴住居跡） SH1015b B 地区の南半において検出した。一辺 2.7mの隅丸方形を呈



する。床面からは土師器甕、上層からは須恵器杯身や加工材が出土した。6世紀前半代と考えられる。

#### 時期不明の水田跡

・**水田畦畔痕跡** B・C地区の中程から網目の様に検出されている。一辺5mほどの不整形の区画が、地形の傾斜に沿って広がる。これらは小規模水田の畦畔と考えられる。平安時代前期の建物跡及び畑跡に切られ、古い。また弥生時代後期から古墳時代前期の溝とは関連性が見いだされなかった。形状から古代より遡るものと考えられる。

#### 平安時代の集落と条里型地割

・**掘立柱建物跡** 2棟の掘立柱建物跡を検出した。何れも桁行2間・梁行3間の側柱建物である。1棟は南北棟（南北桁行約6m×東西梁行4m）である。柱穴は方形掘方であり、一辺0.6m前後の規模をもつ。1棟は東西棟（東西桁行約6.8m×南北梁行5m）である。柱穴は方形掘方であり、一辺0.6m～0.8mの規模をもつ。

・**井戸 SE1029b** 南北棟の掘立柱建物の南側に造られた井戸である。上面の形は一辺約2mの卵形の掘方を呈し、内部を一辺約1.4mの方形に掘り込んでいる。掘方内には井側材はなく、1.3mほど掘り下げた底面に木櫃を転用した水溜を礫層上に据えている。木櫃は底板がなく、短辺約45cm・長辺68cm・深さ45cmの直方体である。板材の厚みは約2cmを測る。内側に4本の杭を打ち込み固定している。

上面近くからは『門』と墨書された須恵器椀の蓋が出土した。また、水溜め内からは土師器杯と木製祭祀具が出土している。

・**井戸 SE1094b** 東西棟の掘立柱建物跡の北東側に造られた井戸である。井戸は径2.6m～2.8mの不整形円形の掘方を穿ち北半に方形の井側を据える。井戸の検出面の標高は2.0mである。

井戸は①～④の工程で造られている。①円形の掘方を検出面から約1.2m掘り下げる。更に中央を80cmほど掘り下げ、水溜（曲げ物・折敷）を据える掘方とする。この際、湧水する礫層を20cmほど掘り下げる。②径40cm・深さ35cmの曲げ物を据え、更に上部に短辺約40cm・長辺約50cm・深さ22cmほどの隅丸長方形の折敷を2段に積んで水溜めとする。③折敷の上に蒸籠組の井桁を2段に組む。板材の厚みは約4cm、井桁の内法は約57cm、一段の深さは約22cm、2段44cm前後である。④井桁の上部に更に4本の隅柱によって方形に組んだ横棧縦板組の井側を載せている。井側の内法は約80cmである。

井戸内からは墨書土器、須恵器杯、木錘、箒と考えられる枝束、木製祭祀具などが出土している。須恵器杯にハマグリ等貝類を収めたものも出土しており、神饌行為があったと考えられる。

墨書土器は須恵器杯底部の外面に『万吉』・『万×』・『×吉』が記されており、概ね『万吉』と墨書されていたと考えられる。また、水溜に使用された曲物にも『万吉』の刻書に更に墨を入れている。

墨書土器を含め土器はいずれも平安時代初め頃と考えられる。

・**畑跡** 掘立柱建物跡の周辺からは、東西あるいは南北方向に数列の溝が見つかった。これらは畑の畝間の溝と考えられる。これらの溝は方位をN60°W～N70°Wにとっており、加えて建物跡と重複していないことから、建物と同時期の畑作と考えられる。

・**坪境の大畦畔一条里型地割** B・C地区の北端からAとB・C地区を分ける現在の里道に沿って2.5m間隔で3本の溝を検出した。これらの溝は現在の里道の祖型と考えられ、古い坪境となる大畦畔の側溝と考えられる。掘立柱建物跡や畑の畝溝は大畦畔と近似した方位をN71°Wにとっており、大畦畔もまた古代に遡ると考えられる。

### 3 まとめ

今回の調査では A・B・C 地区のほぼ全域で遺構・遺物が確認できた。

A 地区では弥生時代後期から古墳時代前期の集落と管理された旧河道・大溝が見つかった。旧河道からは多量の土器が出土したが、その多くは上流から流されてきたものである。郷着遺跡内の上流に遺跡が存在する可能性が非常に高い。C 地区からは円形周溝墓の可能性のある半円形に巡る溝が見つかった。また、網目状に溝・畦畔が検出されており、B 地区・C 地区の南半については弥生時代後期から古墳時代全般にかけて広く耕地化されていたことが伺える。

B・C 地区にまたがる平安時代初期の集落跡からは 2 棟の建物・井戸 2 基を検出した。両井戸ともに、一般集落において使用されている井戸とは様相を異にしている。その丁寧な造りと祭祀神撰の存在から小規模な集落ではなく、出土土器の量から勘案して、更に西側あるいは東側に集落が広がる可能性が高い。



B・C 地区全景（上が西）



B 地区全景（上が西）



井戸 SE1094b 出土 墨書土器（左「万吉」 中央「万吉」 右「万」）



井戸 SE1094b 井桁の状況（北から）



井戸 SE1094b 出土 墨書「万吉」曲物

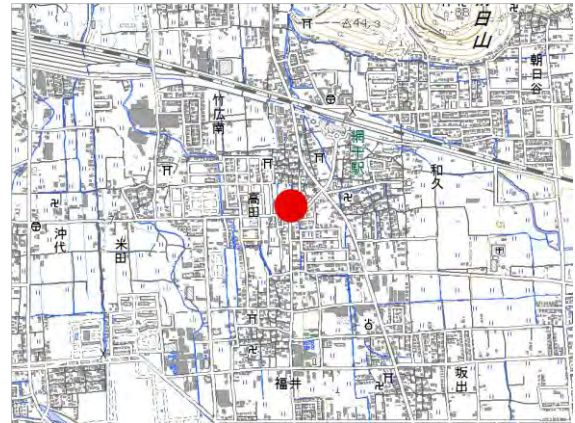


井戸 SE1094b 出土 蛤の入った須恵器坏

まえだ  
**10 前田遺跡**

遺跡調査番号 2018011

所在地 姫路市網干区高田  
事業者名 兵庫県中播磨県民センター  
姫路土木事務所  
事業名 (主) 太子御津線社会資本整備  
総合交付金事業  
担当者 別府洋二・青山 航  
種別 本発掘調査  
期間 平成 30 年 5 月 9 日～9 月 20 日  
面積 1,190 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「網干」）

## 1 調査に至る経過

(主) 太子御津線のバイパス道路の整備に伴い、平成 26 年度と平成 29 年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査の結果、遺跡が存在することが明らかとなっている（遺跡調査番号：2014100・2014016・2017015・2017028）。遺跡は北から鍛冶田遺跡、中筋遺跡、前田遺跡と連続しており、平成 27 年度から本発掘調査を実施している。前田遺跡は平成 28 年度に対象地区内の南端部を東西に調査し、平成 29 年度には 8 区の本発掘調査を実施している（遺跡調査番号：2017010）。

## 2 調査の概要

【7-A 区】 7-B 区の南端の西に細長く続く調査区で、7-B 区で検出した中世の溝が続いている。この溝からは、13 世紀の完形の瓦器椀・皿が出土した。また、古墳時代中期の方形の竪穴住居跡 1 棟を検出した。住居跡は西辺に焼土を有し、一边が 3.5m ほどの規模を持つ。円形の土坑（竪穴住居跡か）、大小の柱穴も検出し、弥生時代から中世にかけての遺跡が西方に広がっていることを確認した。

【7-B 区】 南東部で微高地を形成する礫層を検出し、遺構面は北側がわずかに低い。ほぼ同一面で、弥生時代から中世の遺構を検出した。

方形の竪穴住居跡 12 棟を検出し、その一部は切り合っていた。竪穴住居跡壁面の偏った位置で焼土を検出しており、竈と考えられる。周壁溝は存在する建物と存在しない建物がある。これらの竪穴住居跡からは布留式でも新しい段階の土師器や初期須恵器、7 世紀の須恵器、滑石製紡錘車などが出土しており、5 世紀を中心として継続的な集落の存続が考えられる。

柱穴は円形のものの他に、古代の方形の柱穴を検出した。

調査区の西辺には、ほぼ南北に走る幅約 1 m の溝があり、南端で直角に西に屈折している。この溝は屋敷等の区画溝と考えられる。溝の下面では鉄分やマンガンが生成されており、水を流していたことが想定される。埋土に中世（13 世紀まで）の遺物が含まれていた。

【9 区】 7 区から約 200m 南側、平成 28 年度調査区（A 区）とは 3m 程度の細い道を挟んで北側に位置する。検出した遺構は、柱穴約 670 基、土坑十数基、南北方向に走る溝十数本などがあり、比較的密度が高かった。柱穴は、調査区のほぼ全面で検出し、ほとんどが円形のものであった。直径 50 cm 未満のものが多く、中世の柱穴と考えられる。調査区ほぼ中央では一边 60 cm ほどの方形の柱穴を検出した。





7区全景 (上が南)



9区全景 (上が西)





7-B 区初期須恵器出土状況



7-B 区初期須恵器出土状況

これは古代のものと考えられ、3 間×2 間及び 2 間×2 間の掘立柱建物跡と考えられる。なお、円形の柱穴、方形の柱穴共に遺物はほとんど出土しなかった。土坑は用途不明のものが多いものの、鉄釘が 1 点出土している土坑があり、形状からも中世墓と考えられる。

遺物は包含層から弥生～近世まで幅広い時期のものが出土している。一方、遺構に伴うものの多くが中世の土師皿、鍋・羽釜、東播系須恵器、備前焼、青磁であり、時期は 13 世紀のものが多い。

### 3 まとめ

弥生時代の遺構は、前田遺跡 7-A 区で土坑を検出した。また、7-A 区、7-B 区の包含層からも弥生時代中期の遺物が出土しているものの、その量は少なかった。

古墳時代の遺構は、7-A 区 7-B 区で方形の竪穴住居跡、土坑、柱穴を検出した。住居跡からは、5 世紀前半の初期須恵器の蓋や組紐文・コンパス文の器台、坏身、石製算盤玉形紡錘車、韓式系土器などの渡来系遺物が出土した。昨年度の前田遺跡 8 区の調査では時期は少し新しくなるものの、5 世紀末から 6 世紀前半の黒色土器や装飾付須恵器、韓式系土器などが井戸から出土している。平成 27 年度の鍛冶田遺跡の調査でも韓式系土器や比較的古い古墳時代中期の須恵器が出土している。以上から、隣接する前田、中筋、鍛冶田の 3 遺跡は、古墳時代においては同一の集落で、地点を変えながら渡来人もしくは関係する集団が長期間居住していたと考えられる。『播磨国風土記』揖保郡の項にも、「韓人や新羅」など朝鮮半島に関する記述がある。そのため、前田遺跡のある揖保郡が渡来人の影響を色濃く受けたとすることができる。今回の発掘で初期須恵器が出土したことから、当地域が播磨地域のなかにあっても早い段階に渡来人もしくは関係する集団が居住していたことが推定でき、古墳時代集落を研究する上で重要な成果であろう。

古代の遺構は、7-B 区と 9 区共に方形の柱穴を検出した。ただし、遺構の数も少なく、また出土遺物も布目の平瓦や須恵器などわずかであった。

中世の遺構は柱穴や溝、土坑など多くの遺構を 7 区と 9 区で検出した。特に 9 区は中世以外の遺物は少なく、中世になり土地利用範囲が広がったことが分かる。7-A 区出土の瓦器碗は、播磨地域での出土例は少ないものの、古網干遺跡で大量に出土している。古網干遺跡は魚吹八幡神社に隣接し、中世には京都の石清水八幡宮と関係深く水上交通の要所でもあったため、畿内系の瓦器碗が多く出土したと考えられている。前田遺跡は魚吹八幡神社と関係の深い福井庄にあたり、河港が近隣にあったと考えられる。この他、青磁なども出土している点などからも、魚吹八幡神社や河港と関係する遺跡と考えられる。

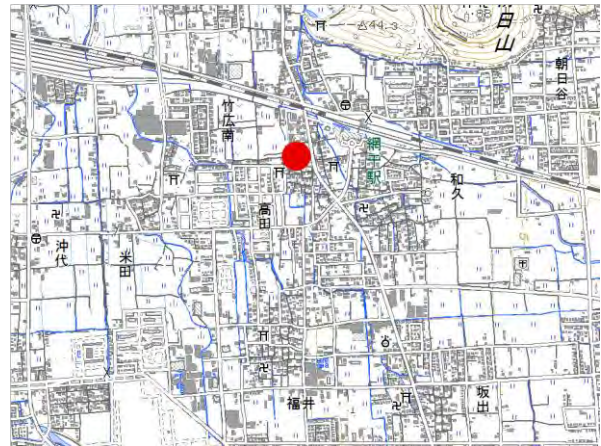


## 11 中筋遺跡

なかすじ

遺跡調査番号 2018012

所在地 姫路市網干区高田  
事業者名 兵庫県中播磨県民センター  
姫路土木事務所  
事業名 (主) 太子御津線社会資本整備  
総合交付金事業  
担当者 別府洋二・青山 航  
種別 本発掘調査  
期間 平成 30 年 5 月 9 日～9 月 20 日  
面積 546 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「網干」）

### 1 調査に至る経過

(主) 太子御津線のバイパス道路の整備に伴い、平成 26 年度と平成 29 年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査の結果、遺跡が存在することが明らかとなっている（遺跡調査番号：2014100・2017028）。遺跡は北から鍛冶田遺跡、中筋遺跡、前田遺跡と連続しており、平成 27 年度から本発掘調査を実施している。中筋遺跡は 29 年度に 2 区と 4 区について本発掘調査を実施している（遺跡調査番号：2017009）。

### 2 調査の概要

#### 【1-A 区】

2 面の遺構面を検出した。上層の遺構面では土坑、柱穴をわずかながら検出した。包含層からは弥生時代～中世の遺物を検出しているものの、遺構に伴うものは中世に限定できるため、中世の遺構と考える。調査区の南東部では礫層を検出し、下層はこの礫層を肩として調査区のほぼ全域で北東から南西に走る深さ 1m 以上の流路を検出した。この流路からは弥生時代中期の土器が多く出土した。

#### 【6 区】

方形の竪穴住居跡 6 棟（うち竈を持つもの 3 基）、円形の竪穴住居跡 1 棟、土坑、柱穴、溝を検出した。方形の竪穴住居跡は一边 5m 弱になるものが多く、長方形をしている。遺構内からの出土遺物は少ないものの、一番北側の竪穴住居跡からは土師器の高杯が出土しており、古墳時代後期のものと考えられる。円形の竪穴住居跡は中央に焼土があり、直径で 4m 程度になるが、中世の柱穴に切られていたため、床面で住居跡に伴う柱穴や壁溝などは検出できなかった。遺物はサヌカイトの剥片が出土している。住居跡からの出土遺物は少ないものの、周辺の包含層から弥生時代中期の土器が多く出土しているため、同時期の遺構と考えられる。

土坑はほとんどが用途不明であった。しかし、トレンチ中央付近の 1 基は最下層にわずかながら炭及び骨片のような白色の粒がみられたため、土坑墓の可能性が高い。なお、この土坑からは、15 世紀の備前焼の甕が出土した。

溝はほとんどが中世のものと考えられるが、そのうちの一条は遺物より弥生時代前期末～中期初頭、もう一条は古墳時代後期と考えられる。

なお、遺構面直上の包含層からは、弥生時代～中世までの幅広い時期の土器が出土した。

### 3 まとめ

弥生時代の遺構としては、中筋 6 区で前期末～中期初頭の溝、中期の円形の竪穴住居跡を検出した。北側に隣接する鍛冶田遺跡でも弥生時代前期の水田や、弥生時代中期の竪穴住居跡を検出しており、同一の集落の可能性を指摘できる。しかし、中筋 6 区と鍛冶田遺跡の間には中筋遺跡 1-A 区等の調査により流路があったことが分かっており、遺物より埋没したのは中期と考えられ、当時は流路で分かれていた可能性が高い。

古墳時代は方形の竪穴住居跡や溝に伴い 6 世紀～7 世紀の古墳時代後期の遺物が出土した。前田遺跡 7 区や鍛冶田遺跡では 5 世紀の古墳時代中期の遺物が多く、前田遺跡と中筋遺跡、鍛冶田遺跡は本来同一の集落で、地点を移動しながら居住していたと考えられる。

中世は 13 世紀～15 世紀の土器や陶磁器が多く出土した。中筋遺跡 6 区からは青磁が出土した。前田遺跡の発掘調査でも青磁が出土しており、遺構の広がりからも前田遺跡とひとつづきの集落の可能性が高く、出土遺物からも河港に関係する遺跡と考えられる。



1-A 区上層全景（上が北）

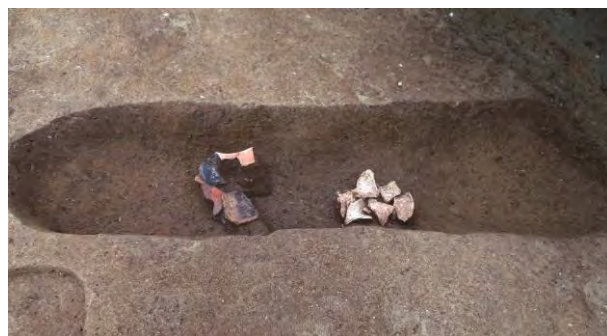


1-A 区下層全景（上が北）





6区全景(上が北)



6区弥生時代前期末～中期初頭の溝



6区古墳時代後期の溝



6区竪穴住居跡



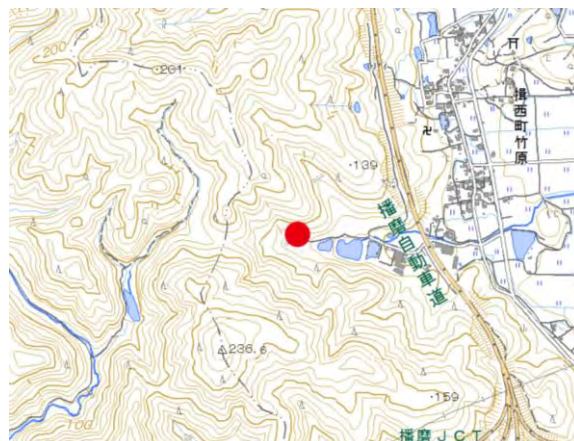
6区土坑断面



たけはら  
12 竹原9号・11号窯

遺跡調査番号 2018071

所在地 たつの市揖西町竹原  
事業者名 兵庫県西播磨県民局光都農林振興事務所  
事業名 県単独緊急防災事業  
担当者 高瀬一嘉・山本 誠・中川 渉・鐵 英記  
上田健太郎・渡瀬健太・山田清朝  
種 別 本発掘調査  
期 間 平成31年2月18日～3月20日  
面 積 490 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「二木・相生」）

## 1 調査に至る経過

西播磨県民局光都農林振興事務所による県単独緊急防災事業に伴い、県教育委員会が平成30年度に分布調査を実施した。その結果、事業地内に窯跡1基（竹原9号窯）が存在することを確認したため、本発掘調査を実施した。なお、本発掘調査の過程で、事業地内において、未周知の窯跡1基（竹原11号窯）の存在が明らかとなったことから、当窯跡の本発掘調査も併せて実施した。

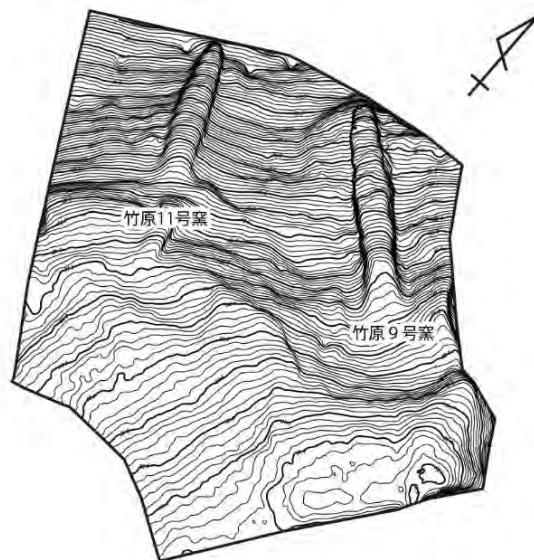
## 2 調査の概要

### 【竹原9号窯】

南向き斜面において、窯体と灰原を検出した。全体的に遺存状況は良好で、窯体は焚口部から煙道部まで検出することができた。主軸は北西-南東方向をとる。半地下式の登り窯であるが、天井部は全て崩落し、地下部のみが遺存する。窯体上半部は岩盤を削り抜き、下半部は地山を掘り込む形で形成される。全長は水平距離で10.8m、幅は焚口付近で2.4m、中央部で2.1mを測る。検出面から床面までの深さは約1.1mである。また、床面の斜度は焼成室部分で約30°焚口付近で約10°となる。

煙道部から約5mの地点では再度焚口を形成したとみられる痕跡が確認でき、古段階と新段階の2時期に分けることができる。各段階ともに少なくとも2面の硬化面が認められることから、竹原9号窯は4回以上の操業が行われたことは確実である。新段階1回目の操業時の床面からは、平瓦が敷き並べられた状態で出土した。これらの瓦は、焼台として使用されたものと考えられる。

灰原は最も厚い箇所では約 50 cmを測る。灰原内からは、須恵器の椀・皿が多量に出土し、壺や甕、



調査区全体図 (S=1/400)

鉢も出土した。平瓦及び丸瓦も多く出土しており、瓦陶兼業窯であったとみられる。灰原層の中には、瓦を集めて置いたと見られる集積も確認できた。出土遺物の形態的特徴から、竹原 9 号窯は 11 世紀後半を中心とした時期に操業されたと考えられる。

#### 【竹原 11 号窯】

竹原 9 号窯西側約 10m の地点で、窯体と灰原を検出した。全体的に遺存状況が良好で、焚口部から煙道部まで検出することができた。主軸は北北西-南南東方向をとる。窯体は、竹原 9 号窯と同様に半地下式の登り窯で、天井部は全て崩落しており、地下部のみが遺存する。地下部は、焚口付近を除いて、岩盤を削り抜く形で造られていた。全長は水平距離で 6.40m を測り、その最大幅は 2.00m、検出面からの深さは 80 cm である。また、窯体床面の斜度は 35° を測る。窯体の上端部では煙道部が残存し、その高さは 80 cm を測る。なお、窯体については、明確な補修痕等は認められなかった。窯体の床面上からは、須恵器の椀が伏せられた状態で出土しており、焼台として使用されたものと考えられる。

灰原についても、良好な状態で遺存しており、須恵器の椀・皿が多量に出土した。竹原 9 号窯でみられた壺や甕、瓦は認められず、当窯においては、椀と皿を中心とした小型の須恵器を焼成していたものとみられる。出土遺物の形態的特徴から、竹原 11 号窯も 11 世紀後半を中心とした時期の操業と考えられる。

### 3 まとめ

事業予定地内において、南向き斜面において東西に並ぶ 2 基の窯跡の調査を行った。窯跡はいずれも半地下式の登り窯で、窯体・灰原ともに良好に遺存している。窯体・灰原からは椀や皿を中心とした須恵器や丸瓦・平瓦が大量に出土しており、その特徴から、両窯ともに 11 世紀後半の操業と考えられ、11 号窯の方がやや古い傾向を示す。

竹原 9・11 号窯は「相生・龍野窯跡群」に属する。「相生・龍野窯跡群」は西播磨地域では最大の規模をもつ窯跡群であり、これまでの研究から、古墳時代後期（6 世紀）から鎌倉時代初頭（13 世紀）まで操業が行われたことが判明している。中でも、平安時代後半期（10～11 世紀）が生産のピークと考えられているが、今回の調査から竹原 9・11 号窯は当地域での窯業生産が最も活発な時期に形成された窯跡であったことが明らかとなった。



竹原 9 号窯全景（南東から）



竹原 11 号窯全景（南東から）



ふくい いけのした  
**13 福井池の下遺跡**

遺跡調査番号 2018009

所在地 相生市市福井・若狭野  
事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
姫路河川国道事務所  
事業名 一般国道2号相生有年道路改築事業  
担当者 別府洋二・西山昌孝  
種別 本発掘調査  
期間 平成30年9月20日  
～平成31年2月15日  
面積 2,423 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「二木・相生」）

## 1 調査に至る経過

本遺跡は、千種川へ東から合流する矢野川の流域に広がる盆地状地形の平地に立地し、昭和57年度の圃場整備に伴って一部調査が行われている。今回の事業地では、平成24・27年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査の結果、一部に遺跡が存在することが明らかとなり、平成29年度より本発掘調査を開始した。今年度は、西からE・F・G・H・I地区に分けて本発掘調査を実施した。

## 2 調査の概要

### 【各区の概要】

**E区：**確認調査によって、上下2面の遺構面を検出した。上面は他地区でも弥生時代から近世までの遺構面としている黄褐色極細砂質のベースで、溝・柱穴・土坑などを検出した。調査区の東南端は大きく落ち込み砂礫の堆積が見られ、旧河道の肩部であると考えられる。旧河道内には弥生時代から奈良時代の土器が含まれており、最上層からは平安時代後期の土器が出土した。ほかの遺構からの遺物の出土は少ないが、古墳時代以降のものが主体を占めると考えられる。

下面では確認調査で見つかった炭の含まれる土坑を調査し、炭化材及び縄文土器片が出土した。

**F区：**調査区の北半部を旧河道が占め、旧河道内からは弥生時代から平安時代に至る遺物が多く含まれていた。旧河道は調査区の東端で北から流れ、西へと蛇行し、調査区の西端でさらに西側へと続く流れと、南へ方向を変える流れに分岐する。

西側へと続く流れでは北側の岸が一部検出できたが、出土する遺物量は著しく減少するため、北岸に続く微高地に集落は広がらないと考えられる。南側へと流れる河道には多くの弥生土器が含まれている。

この旧河道は幾度も洪水と埋没を繰り返しており、川岸の遺構を大きく削って流れているが、南岸及び東岸では多くの遺構を検出し、集落の中心部と想定できる。出土土器から主に弥生時代中期中頃、及び古墳時代前期のものに大きく分かれる。

検出した遺構には竪穴住居跡・溝・土坑・柱穴がある。竪穴住居跡には平面形が円形のものと方形のものがあり、円形のSH102は弥生時代中期に属するものと思われる。削平及び後世の掘削のため、周壁溝と一部の柱穴がこの住居に伴うものと推定できる。直径約7m。方形は2棟あり、SH1は弥生時代中期に属するものと思われる。河道による削平のため、ほとんど残っていない。一辺約3.5m。後述す





E 区第 1 面全景（上が北）



F 区全景（上が北）



G 区全景（上が西）



H 区全景（上が北）



I 区全景（上が北）

る SH101 は古墳時代前期に属するものと思われる。炭化材・焼土が大量に出土する、いわゆる焼失住居である。一辺 4.0m×4.5m。溝には河道に取り付くものが多く、河道に沿うように設けられた溝は古墳時代前期までの遺物が出土しており、河道からの取水や排水する機能をもつものであろう。南北方向に走る溝は出土遺物より新しいものである。

**G 区：**周辺の地割りにのる方向に走る溝が中央を南北に通じ、現代の溝に大きく攪乱されながらも弥生時代中期の溝が残存していた。周辺には土坑・柱穴が検出され、掘立柱建物跡が 3 棟程度復元できる。柱穴からの出土遺物のほとんどが弥生時代のものであるが、おそらく後の時代のもものと推測される。

**H 区：**H 区は確認調査によって調査範囲内でも微高地の中心部と捉えられていたが、近世以降の瓦粘土採掘坑や攪乱によって、遺構面はほとんど失われていた。わずかに残存した遺構面や部分的には攪乱の内部にも弥生時代中期を中心とした柱穴・土坑などが検出され、西側の F・G 区で検出した集落中心部からの広がりを示している。地形的には東へと下る傾斜を持ち、東側の I 区で検出した小谷地形へと続き、集落の末端部へと向かうものと捉えられる。

**I 区：**昨年度の調査で大量の弥生土器や木製品を含む土器溜りを検出した南側部分が対象となる。土器溜りを形成する地形は、浅く小さな谷地形の谷頭部にあたり、調査区内では幅 6m 程度まで広がっていることが確認できた。出土土器の密集度は南に向かって次第に疎となるが、加飾の著しい壺形土器などが集中して出土した。谷地形の東側は平坦部となるが、顕著な遺構は見られず弥生時代の集落は西側や北側に存在するようである。

#### 【焼け落ちた竪穴住居跡 F 区 SH101】

主柱穴が2本の隅丸方形の竪穴住居跡で、炭化した建築部材や焼土が大量に出土した焼失住居である。焼土の下から炉2基、壁際土坑、高床部等を検出した。遺構検出時には焼失した状況は見られなかったが、掘削を進めると焼土の堆積は2度あることを確認した。上層の焼土からは、炭化材が住居の中央を横断する方向と、一部は異なるが概ね放射する方向で検出した。その出土状況から住居の棟木と垂木と考えられる。



F 区 SH101 上層の焼土面（南から）



F 区 SH101 床上面（南から）



F 区 SH101 壁際土坑（北から）



F 区 SH101 三方向のうち北側壁際の壺（南西から）

竪穴住居跡の堆積状況を観察すると、鎮火時には内部に空間が残し、その後に沈下したと考えられる。上層の焼土の上には焼土を含んだ堆積があるが、自然堆積ではなく沈下したものと考えられる。建築部材が良好に残っていたことは蒸し焼きになった可能性があり、土屋根の可能性を示している。

遺物は、南・北・東側の三方向の壁際から小型壺が出土した。北側の壺は炭化材の近辺で出土したため二次焼成を受けているが、他の出土遺物はあまり二次焼成を受けていない。しかし、床面ではなく、壁溝、壁際土坑、および床部が高床部まで埋まった状況で壺が住居内に置かれており、その後に焼失したとは特筆すべきことである。

高床部は南・東・西側の三方向にあり、南側は壁際土坑によって切られている。北西側には、作業台と思われる上面が滑らかな方形の石が置かれていた。高床部直上からは小型の手づくね土器が口縁を下にし、口縁の一部を床に食い込ませて出土した。体部外面に黒斑はあるが住居の焼失に伴うものではなく、住居の機能面からの遺物と考えられる。床面の中央には焼土が詰まった炉状の土坑 2 基を検出した。下層の焼土はこの土坑に対応すると考えられ、そのうち 1 基は周囲が強く被熱していた。

南側では壁際土坑とこれを板で囲んだ痕跡を検出した。周囲には礫が敷かれており、北側からこの土坑に向かって下る、ゆるやかな傾斜がある。礫敷きの下や周辺にごく浅い溝があり、土坑には注水口が設けられていた。その横から土坑へ流れ込む水を調整する、栓として使用したと思われる炭化物が出土している。方形に板で囲んだ痕跡は約2cmの溝で、多いところで三度の重なりがある。また、壁際土坑



と逆方向にも排水溝を2条検出した。

### 3 まとめ

今回の調査で、E区の東端部で検出した旧河道は弥生時代の集落の縁辺部であることや、F区の西端で検出された南流する旧河道から弥生土器が出土したことなどから、この旧河道は弥生時代の集落の西端であることが判明した。また、I区で検出した土器溜まりが集落の東端であることから、弥生時代中期の集落は東西が約180mの範囲に広がることが判明した。

集落の西側及び北側は河道によって限られており、北東から南西に長い集落範囲が想定できる。なお、昭和57年度の調査などでさらに広い範囲で土器などが出土していることが知られており、いくつかの単位に分かれた大きな集落の一部であったと推定される。

古墳時代前期の集落が確認できたことも大きな収穫である。集落のごく一部の検出であるが、弥生時代中期の集落と重複している。北側の丘陵上に存在する前方後円墳、大避山1号墳との関係が重視される。検出されたSH101は残存状態が良く、焼失住居であったことも含めて、土屋根や炭化材、床の状況から上屋構造・内部構造を知る上で得られた情報は大きい。また、ある程度埋没した状況で置かれた壺から、竪穴住居を廃棄する方法を考える上で興味深い資料となるであろう。

昨年度の調査では、古墳時代後期後半の集落を調査対象範囲の西端部で検出した。今回の調査では旧河道内から古墳時代後期前半にあたる遺物が出土したことから、河道上流部の北側にその時代の集落が存在していることが推定される。

また、前回の調査でも国道の北側以外ではほとんど出土しなかった奈良時代以降の遺物が旧河道上層や部分的な流路から出土したことから、調査範囲周辺は水田等の耕作地として利用されていたと推定できる。周辺に顕著に残されていた条里型地割りに関係する遺構は、調査区の制約もあってほとんど検出できなかった。

福井池の下遺跡は、縄文時代・弥生時代中期・古墳時代前期・古墳時代後期・中世の各時代の集落が確認され、またその時代間を埋める時期の遺物も出土したことから、長期にわたる歴代遺跡として認識され、矢野川流域小盆地の中心的な集落遺跡と考えられる。



福井池の下遺跡 西端からの全景（南西から）



東端から出土した大量の土器（東から）



## 14 うねむれ いだ 有年牟礼・井田遺跡

遺跡調査番号 2018010

所在地 赤穂市有年牟礼  
事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
姫路河川国道事務所  
事業名 一般国道2号相生有年道路改築事業  
担当者 別府洋二・西山昌孝  
種別 本発掘調査  
期間 平成30年9月20日  
～平成31年2月15日  
面積 446 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「二木・相生」）

### 1 調査に至る経過

同遺跡では、同事業及び区画整理事業に関連して既に周辺の埋蔵文化財の調査を実施している。対象地は、平成27年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査の結果から、本発掘調査を実施した。

### 2 調査の概要

調査の結果、調査範囲の北西部で旧河道を検出した。河道岸は垂直に近く立ち上がる地点もあり、洪水によって地山が浸食され、砂礫によって埋没した状況が観察できた。一部に黒色シルトの堆積や流水を認めた。河道南岸では地山との境に一部、暗褐色細砂質の包含層を認め、弥生時代中期を中心とする土器が、砂礫堆積物からは古墳時代後期の須恵器が出土しており、古墳時代以降の洪水が考えられる。

調査区の南半部には弥生時代以降の基盤層と想定できる黄褐色極細砂層がわずかに広がっている。南端部に東西に走る流路を検出し、上層の極細砂層からは中世前半の土器が出土している。遺構面からは溝や柱穴を少数検出したが、生活面としては安定していない。

### 3 まとめ

検出した旧河道は北東から南西に流れる旧矢野川の一部と思われる。今回の調査区は微高地から河道へと落ちる地形にあたり、集落遺跡としてはその最末端部と考えられる。



有年牟礼・井田遺跡遠景（南から）



調査区全景（南西から）

たかぬき  
15 竹貫古墳群

遺跡調査番号 2018003

所在地 豊岡市日高町竹貫  
事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
豊岡河川国道事務所  
事業名 一般国道 483 号日高豊岡南道路  
担当者 山田清朝・藤原怜史・大嶋昭海・  
松崎光伸  
種別 本発掘調査  
期間 平成 30 年 4 月 18 日～8 月 10 日  
面積 808 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「江原・豊岡」）

## 1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による一般国道 483 号日高豊岡南道路（北近畿自動車道）の建設に伴い、県教育委員会が平成 21 年度に分布調査を、平成 25 年度に確認調査を実施した。その結果、事業地内に 2 基の古墳（竹貫 23 号墳・竹貫 24 号墳）が存在することが明らかになったため、本発掘調査を実施した。

## 2 調査の概要

### 【竹貫23号墳】

尾根上に立地する直径約11mの円墳である。古墳の背面で、南北方向の区画溝を検出した。

墳頂部で南北方向に主軸をもつ主体部を2基検出した（第1主体部・第2主体部）。第1主体部の埋葬施設は竪穴式石槨である。石槨の規模は、内法で長さ2.5m、幅0.8～0.9m、深さ0.7mである。石槨の平面形は、北側小口が直線であるのに対し、南側小口は曲線をなす。北側小口が南側小口に比べ、やや広くなる形状である。石槨は4段積みで、壁体の背面に控え積みを認めた。石槨に蓋石は架けられていなかった。石槨の床面には棺を据え付けるための掘り込みを設け、その断面形は半円形をなすことから、割竹形木棺が据えられていたと考えられる。遺物は、棺底から鉄鏃が副葬された状態で出土している。この他に、石槨内埋土の上層から須恵器の腿が出土している。

第2主体部は、木棺直葬である。墓壇の規模は南北2.2m、東西1.1m、深さ0.6mを測る。土層断面で



調査区全体図



のみ、箱形木棺の痕跡を確認することができた。

古墳の時期は、第1主体部で出土した土器から、古墳時代中期末ごろと考えられる。

#### 【竹貫24号墳】

24号墳は、23号墳の東側下方に位置する。墳丘の南側が崩れて失われているが、残された部分から一辺約10mの方墳と考えられる。古墳の背面で、南北方向の区画溝を検出した。

24号墳の主体部は、南北方向に主軸をもつ竪穴式石室1基である。墳丘と同様に、墓壙および石室も南側が崩れて失われていた。石室の規模は、内法で残存長1.4m（復元長2.4m）、幅0.8m、深さ0.5mである。石室内で棺の痕跡は確認できなかった。石室は4段積みで、壁体の背面に控え積みを認めた。石室には天井石が架けられていたが、原位置をとどめていたものは1枚のみであった。天井石と考えられる板石が石室内や南側墳丘裾で確認でき、3枚以上の天井石が架けられていたと考えられる。

石室の床面からは、鉄刀と刀子、土師器の直口壺がそれぞれ1点ずつ副葬された状態で出土している。この他に、墳頂部から須恵器の甕が出土している。

石室内および墳頂部で出土した土器から、古墳の時期は古墳時代中期末ごろと考えられる。

### 3 まとめ

23号墳では、竪穴式石槨を埋葬施設とする主体部と、木棺が直接納められた主体部の2基を検出した。第1主体部の石槨には蓋石が架けられていなかったが、石槨上面のレベルが一定であることや、石槨内の上層から土器が出土していることから、板材の蓋が架けられていたと考えられる。このような板によって蓋をする例は、朝鮮半島で確認されている。

24号墳では、竪穴式石室を埋葬施設とする主体部を1基検出した。石室内で平面・断面ともに棺の痕跡は確認できず、被葬者が石室内に直接埋葬された可能性がある。

23号墳と24号墳は、いずれも出土した土器から古墳時代中期末に属すると考えられる。23号墳と24号墳は、隣接して造られた同時期の古墳と考えられるが、墳形や埋葬施設において異なる特徴をもつ。23号墳の埋葬施設は、朝鮮半島に見られる特徴を持つため、外来系の被葬者が葬られた可能性が考えられる。他方、24号墳の埋葬施設は在地的な特徴を持ち、在来の被葬者が考えられる。このように、竹貫古墳群は在地的な特徴を持つ古墳と外来的な特徴を持つ古墳が混在する古墳群である。



竹貫古墳群全景（東から）



24号墳 副葬品出土状況（南東から）



たかぬき  
**16 竹貫中世墓**

遺跡調査番号 2018004

所在地 豊岡市日高町竹貫  
事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
豊岡河川国道事務所  
事業名 一般国道 483 号日高豊岡南道路  
担当者 山田清朝・藤原怜史・大嶋昭海・  
松崎光伸  
種別 本発掘調査  
期間 平成 30 年 4 月 18 日～8 月 29 日  
面積 282 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「江原・豊岡」）

## 1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による一般国道 483 号日高豊岡南道路（北近畿自動車道）の建設に伴い、県教育委員会が平成 21 年度に分布調査を、平成 25 年度に確認調査を実施した。その結果、2 基の中世墓（竹貫 1 号墓・2 号墓）の存在が明らかになったため、本発掘調査を実施した。

## 2 調査の概要

### 【竹貫1号墓】

尾根先端に立地する、7m×6mの方形の墳墓である。墳頂部の平坦面では、東西2.5m、南北3.7mの範囲で人頭大の石とそれを覆う拳大の石を検出した。使用された石は、いずれも河原石である。墳頂部では、石組や集石など5基の遺構を検出した。この他、明確な遺構を確認し得なかったが、人骨が集中して出土した場所が1箇所認められた。検出した5基の遺構の内、2基では石組に骨が納められていたことから、埋葬施設であると考えられる。人骨は出土しなかったが、同様の石組みが2基認められ、埋葬施設であった可能性が高い。人骨が集中して出土した箇所に関しても、人骨の周囲に人頭大の石が認められ、埋葬施設であったと考えられる。このことから、1号墓には少なくとも5基の埋葬施設があったと考えられる。1号墓の時期は、出土した土器から鎌倉時代に属すると考えられる。

### 【竹貫2号墓】

1号墓の東側下方に位置する。墳丘は南側が崩れて失われていたが、残存部分において東西6.5m、南北5.0mを測る。墳頂部では、平坦面を方形に囲う基壇状の石組が設けられ、その内側は拳大の石によって充填されていた。この石組は南側が崩れて失われていたが、残存部において東西2.8m、南北2.5mを測る。拳大の石の下からは、8基の遺構を検出した。この内の2基では越前焼の甕と壺が、蔵骨器として使用されていた。この他、明確な遺構を確認し得なかったが、人骨が集中して出土した場所が2箇所認められた。石組の外側では3基の遺構を検出した。基壇状の石組の1辺を共有して、約1mの石組が張り出す形で東西に2基設けられており、西側の石組内には五輪塔の地輪が据えられていた。加えて、土坑の上に石を積み上げた遺構と、人骨が集中して出土した場所が認められた。

2号墓で検出された11基の遺構の内8基では、石組や集石、蔵骨器や土坑に骨を納めた状況が認められ、埋葬施設と考えられる。人骨が集中して検出した箇所も、人骨の周囲に石が認められ、埋葬施設であつ

た可能性が高い。このことから、2号墓には少なくとも11基の埋葬施設があったと考えられる。また、基壇状の石組内では、土層断面の観察と遺構の検出状況から、少なくとも3回以上盛り土がなされたことがわかる。加えて、最下層で検出した土坑は、石組を設置するための盛土層よりも下層に位置するため、2号墓では4度以上にわたって盛土を重ねながら、埋葬施設が造られていたことが明らかとなった。2号墓の時期は、出土した土器から鎌倉時代後期から南北朝時代に属すると考えられる。

### 3 まとめ

竹貫1号墓と2号墓は、ともに方形の墳丘をもつ墳墓である。両墳墓では、墳頂部から多くの埋葬施設を検出した。埋葬の種類は、石組と石積み・蔵骨器への納骨・台石上への納骨・土坑への埋納など、様々なものが認められた。出土した遺物から、この2基の墳墓は鎌倉時代から南北朝時代にかけて築かれたと考えられる。この時期の墳墓には血縁集団が埋葬されていると言われている。同一の墳丘に複数の埋葬がなされた竹貫中世墓も、血縁集団による墓であったと考えられる。

また、竹貫2号墓から出土した蔵骨器の壺と甕は、ともに越前焼である。越前焼は、鎌倉時代後半なると日本海沿岸に広く流通するようになるが、但馬地域においては数例が確認されているにとどまる。竹貫2号墓の被葬者は、日本海沿岸における交易によってもたらされた越前焼を手に入れることができた、有力な一族であったと考えられる。



竹貫中世墓全景（北東から）



竹貫2号墓全景（北東から）



竹貫1号墓 石を組んだ埋葬施設（北西から）



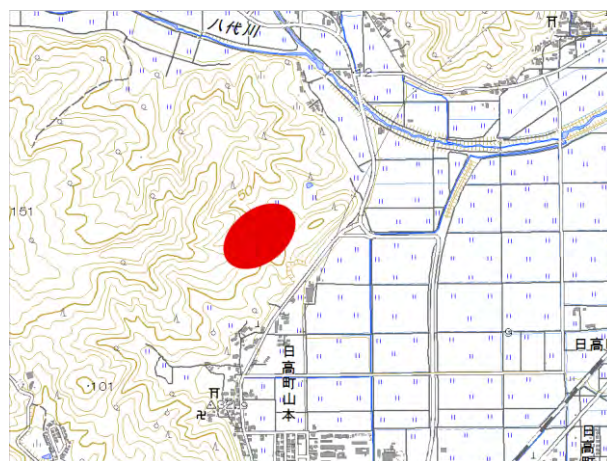
竹貫2号墓から出土した越前焼の蔵骨器



## 17 耳谷草山古墳群

遺跡調査番号 2018001

所在地 豊岡市日高町山本  
 事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
 豊岡河川国道事務所  
 事業名 一般国道 483 号日高豊岡南道路  
 担当者 山田清朝・藤原怜史・大嶋昭海・  
 松崎光伸  
 種別 本発掘調査  
 期間 平成 30 年 5 月 1 日  
 ～平成 31 年 1 月 10 日  
 面積 6,756 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「江原・豊岡」）

## 1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による一般国道 483 号日高豊岡南道路（北近畿自動車道）の建設に伴い、県教育委員会が平成 29 年度に確認調査を実施した。その結果、事業地内に 12 基の古墳が存在することが明らかになったため、本発掘調査を実施した。

## 2 調査の概要

## 【耳谷草山14号墳】

南北4.6m、東西4.2mを測る。14号墳は墳丘の大半の土が流出しており、墳形は明確でなく、埋葬施設も確認できなかった。墳丘付近から須恵器片が出土しているので、古墳時代中期以降の古墳であった可能性がある。

## 【耳谷草山15号墳】

東西 7.3m、南北 8.6m の方墳である。後述する 17 号墳と同一尾根上にある。尾根を削って平坦面が造ら



耳谷草山古墳群 全景（南東から）

れている。尾根を分断する最大幅 1.20m、最大深 0.50m 程の区画溝を墳丘の北側に設けている。埋葬施設は、第 1 主体部～第 4 主体部の計 4 基を検出した。いずれの主体部からも副葬品は出土しなかった。

## 【耳谷草山16号墳】

17 号墳の築造前の旧表土下から検出した。埋葬施設 1 基と、その南側に幅 0.45m、深さ 0.30m の区画溝を検出した。墳形等は不明である。墓壙は最大長 3.10m、最大幅 1.50m の規模を測り、蓋と両小口部のみに板石を用いた箱式石棺を納めていた。17 号墳築造以前の古墳時代前期～中期前半の間の築造が考えられる。

### 【耳谷草山17号墳】

径 16mの円墳である。先述した 15 号墳と同一尾根上の北側に位置する。墳頂部では埋葬施設を 1 基検出した。埋葬施設は墳丘の中心からやや南寄りに設けられていた。東西に軸をもつ。墓壇の規模は最大長 3.80m×最大幅 2.00m程で、長さ 2.60m、幅 0.60mの刳貫式の木棺を納めていた。副葬品は、棺外から鉄鎌 1 丁、鉄鏃 4 本が出土し、U字形鋤先 1 丁が蓋上から落ち込んだような状態で出土した。

古墳の時期は、副葬品の年代観から古墳時代中期後葉(5 世紀後半)と考えられる。

### 【耳谷草山18号墳】

南北 11m、東西 9mの方墳である。古墳の背面で、東西方向の区画溝を検出した。墳丘の断ち割り調査の結果、盛土を確認した。墳頂部では、須恵器が出土したが、埋葬施設は検出できなかった。古墳の時期は、墳頂部で出土した須恵器から、古墳時代中期であると考えられる。

### 【耳谷草山19号墳】

東西 14m、南北 16m程の方墳である。後述する 20 号墳とは同一尾根上に立地し、幅 0.37m、深さ 0.10mの浅い区画溝で分断している。墳頂部では土師器が破碎されたような状態で出土している。埋葬施設は 5 基(第 1 主体部～第 5 主体部)を検出した。

第4主体部からは鉄刀1振り、第5主体部からは鉄剣1本が出土した。その他の主体部から副葬品は出土していない。墳丘から出土した土師器片から、古墳時代前期頃の築造が想定される。

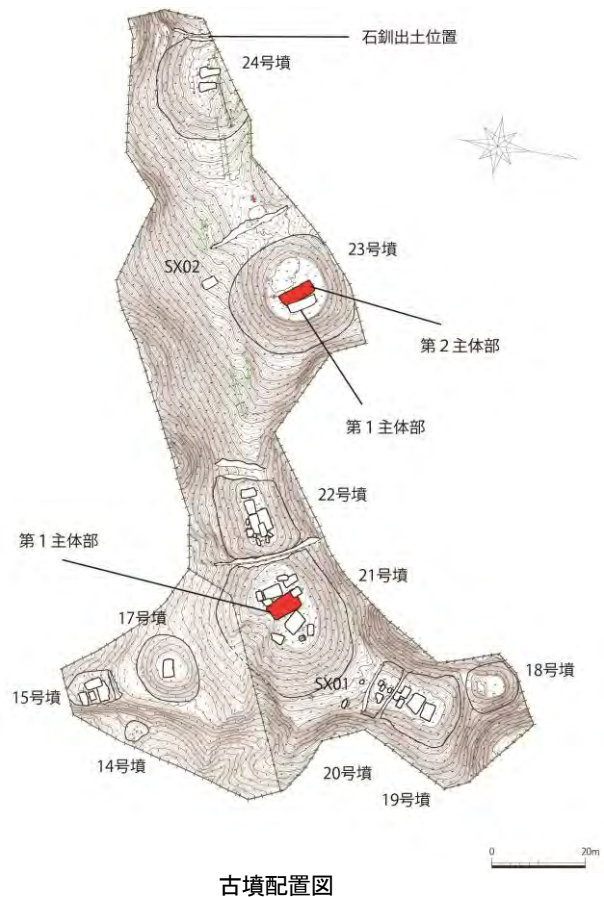
### 【耳谷草山 20 号墳】

19 号墳の南側に位置する、東西 13m、南北 5m程の方墳である。先述したように 20 号墳とは同一尾根上に立地し、区画溝で区画している。墳頂部からは完形に近い土師器が 2 点出土している。埋葬施設は 5 基(第 1 主体部～第 5 主体部)を検出した。20 号墳の墓壇は全て長さ 1m以下と、小規模である点の特徴である。墳頂部から出土した土師器から、古墳時代前期頃の築造が想定される。

### 【耳谷草山 21 号墳】

東西 28m、南北 20mの方墳である。尾根を削り平坦面を造っている。墳丘の南側の一部が崩れて失われている。後述する 22 号墳と同一の尾根上に立地しており、この区画溝によって区画している。墳頂部からは、第 1 主体部～第 12 主体部の計 12 基の埋葬施設がみつかった。主体部の規模は、第 1 主体部が最大長 6.80m、最大幅 3.80mと一際大きく、第 3 主体部の最大長 4.30m、最大幅 3.10mが次ぐ。

第 1 主体部には、H 字形組立式木棺が納められ、両小口部には押さえとして 30 cm～60 cm大の溶岩が数石積み上げられていた。棺の規模は、長さ 2.90m、幅 1.00mを測る。棺底には礫敷がなされ、礫敷前と礫敷後に二重に赤色顔料を塗布していた。棺内から青銅鏡 1 面と刀子 1 本が出土した。



古墳配置図



第3主体部からは石棺系小竪穴式石室を検出した。石室には、板石が蓋として2〜3重に架けられていた。石室の規模は、内法で長さ1.90m、最大幅1.00mを測る。石室床面には礫敷が施しており、赤色顔料を塗布していた。石室中央部で人骨の一部が出土しており、石室内からは鉄刀1振りと鉄鏃の可能性のある鉄製品1点が出土した。その他の主体部からは、第7主体部から鉄剣2振りと鉈が出土した。

古墳の時期は、墳頂部や墳丘斜面で出土した土器から、古墳時代前期と考えられる。

#### 【耳谷草山22号墳】

東西17m、南北15mの方墳である。尾根を削って平坦面を造っている。古墳の東西で、南北方向の区画溝を検出した。先述のとおり、21号墳とは同一の尾根上に立地しており、東側の区画溝によって区画している。

墳頂部からは、第1主体部〜第10主体部の計10基の埋葬施設を検出した。第1主体部と第2主体部が共に最大長4.60mと一際大きい。副葬品は、第1主体部から鉄剣と鉈が各1点、第2主体部から鉄鏃と鉈が各1点、第3主体部から鉈が1点出土している。

古墳の時期は、第2主体部および第3主体部の墓壇上や墳丘斜面で出土した土器から、古墳時代前期と考えられる。

#### 【耳谷草山23号墳】

径25m程の円墳である。尾根とは幅約12.7mの区画溝で西側を切り離されており、その掘削で出た土砂で盛土をして墳丘を造っている。墳頂部からは2基（第1主体部・第2主体部）の埋葬施設を検出した。第2主体部が先行する。

第1主体部は最大長6.10m、最大幅2.00mを測る。棺は刳貫式の木棺であり、舟形木棺の可能性もある。規模は長さ4.00m、幅0.70mを測る。副葬品は、棺中央よりやや北側から青銅鏡1面、刀子1本、玉類（勾玉、管玉、ガラス小玉）40点が出土している。なお、これらの副葬品から0.90m程南側から管玉5点が出土しており、もう一体別の被葬者が棺に葬られていた可能性がある。

第2主体部は最大長8.10m、最大幅2.70mを測る。棺は刳貫式の木棺で、規模は長さ5.70m、幅0.90mを測る。南側小口には20cm〜30cm大の礫群を検出した。この礫の外側には縄掛状突起がのびていた可能性が高い。その他にも、数点の礫が棺の形に沿って設置されていたので、棺の蓋を押さえる役割があったものと考えられる。



21号墳 第1主体部



23号墳 第2主体部

副葬品は棺南側、棺中央部、棺北側、棺外の大きく4つに分かれて配置されていた。棺南側では鉄刀一振り、鉄鏃36本以上、刀子1本が出土している。棺中央部からは青銅鏡1面、鉄刀2振り、鉄剣1本が出土し、鏡周辺には赤色顔料が撒かれていた。棺南側では小口側の礫に一部接した状態で、袋状鉄斧1丁、そこからやや離れて鉄鎌1本が出土している。棺外東側では、鉋1本、ヤスの可能性がある鉄製品2点、その他鉄製品2点が出土している。棺西側からは青銅製品1点が出土している。

古墳の時期は、副葬品と墳丘裾部出土の須恵器片から古墳時代中期前半に築造されたと考えられる。

#### 【耳谷草山24号墳】

東西22m、南北20m程の方墳である。尾根とは幅2.20m、深さ0.84m程の区画溝で西側を切り離されている。この区画溝からは、完形で落ち込んだ土師器が数点出土しており、その近くで滑石製とみられる石釧が出土している。墳頂部からは埋葬施設を2基（第1主体部・第2主体部）検出した。



24号墳 区画溝出土の石釧

第1主体部は最大長4.10m、最大幅1.50mを測る。棺は割竹形木棺で、長さ3.40m、幅0.60mを測る。棺の両小口側には粘土が貼り付けられており、棺を押さえる用途があったと考えられる。副葬品は、棺南側から碧玉製の管玉4点が出土している。

第2主体部は最大長3.60m、最大幅1.50mを測る。棺は組合式木棺で、長さ3.20m、幅0.50mを測る。棺底には礫敷がなされていた。両小口側には第1主体部と同様に粘土が貼り付けられており、棺を押さえていたと考えられる。副葬品は、棺の南側から勾玉1点と切子玉1点が出土している。古墳の時期は、区画溝から出土した遺物と副葬品から古墳時代中期前半に築造されたと考えられる。

#### 【SX01】

20号墳と21号墳の間で2基の主体部（第1主体部・第2主体部）を検出した。

第1主体部は最大長1.10m、最大幅0.80mである。棺は大型の壺を利用した土器棺であり、口縁は破砕された土器片で閉じられていた。副葬品は出土しなかった。古墳時代前期の土器棺と考えられる。

第2主体部は最大長2.00m、最大幅1.56mである。棺はH字形組合式木棺で、長さ0.70m、幅0.15mを測る。副葬品は出土しなかった。詳細な時期は不明だが、前期の可能性が高い。

#### 【SX02】

規模は最大長3.25m、最大幅2.00mを測る。棺の痕跡は確認できなかった。土坑底の四隅で柱穴を検出した。本土坑は、他の墓壇と違い、土坑を掘削して、その土で直接埋め戻した形跡はない。その他の墓壇とは用途を異にした可能性を考える必要がある。本遺構からは遺物が出土していないので、時期は明確でない。もっとも、23号墳と近接していることから、23号墳との関係性が考えられる。

### 3 まとめ

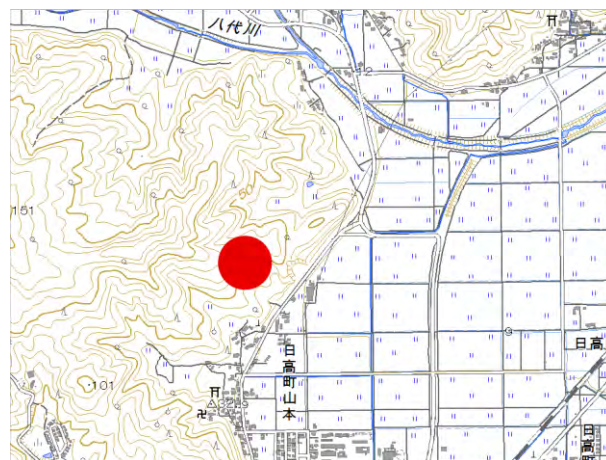
今回の調査では、古墳時代前期～中期後半の12基の古墳を調査した。一つの墳墓に多くの埋葬施設をもつ15号墳・19号墳・20号墳・21号墳・22号墳などの前期の古墳、23号墳や24号墳のように2基程度の埋葬施設をもつ中期前半までの古墳、1基のみの埋葬施設をもつ中期後半の古墳など、時期的に異なる特徴をもつ古墳群の様相が明らかになった。その中でも、複雑な埋葬施設をもつ21号墳の第1主体部や豊富な副葬品をもつ23号墳の第2主体部の被葬者は、それぞれの時期で中心的な役割を果たした人物であったと考えられる。



## 18 耳谷草山遺跡

遺跡調査番号 2018002

所在地 豊岡市日高町山本  
 事業者名 国土交通省近畿地方整備局  
 豊岡河川国道事務所  
 事業名 一般国道 483 号北近畿豊岡自動車道  
 日高豊岡南道路  
 担当者 山田清朝  
 種別 本発掘調査  
 期間 平成 30 年 5 月 1 日～8 月 1 日  
 面積 1,862 m<sup>2</sup>



遺跡の位置（「江原」）

## 1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所は、豊岡市日高町山本において一般国道 483 号日高豊岡南道路を計画している。このため、兵庫県教育委員会が当該事業地一帯を分布調査したところ、文化財が包蔵されている可能性が明らかとなった。このため、平成 29 年度に確認調査が行い、埋蔵文化財の包蔵が明らかとなった。以上から本発掘調査を実施することとなった。

## 2 調査の概要

調査は、遺物が包蔵されると予想されるレベルまで重機により掘削し、以下を全て人力により進めていった。調査成果の記録については、無人航空機(ドローン)による空中写真撮影を行ない、その成果を基に平面図を作成した。

調査では、柱穴と溝・段状遺構が明らかとなった。

柱穴は、計 360 穴検出した。いずれも、径 30 cm 前後の同規模の柱穴である。柱穴の断ち割り調査では、検出面からの深さが 40 cm に及ぶものも少なからず存在した。これらの柱穴は、後述する段状遺構の平坦部を中心に分布する。特に、調査区北東部において顕著である。しかし、いずれの柱穴についても、建物を復元することはできなかった。

溝については、7 条検出した。いずれも、傾斜地の等高線に平行している。一部の溝については、段状遺構とセットをなすものも存在する。

段状遺構は、山側を大きくカットし、平坦地を造成した遺構である。カットされたラインは直線的ではなく、地形に沿ったラインとなっている。平坦地に関しては、盛土を確認することはできなかった。また、その平面形についても、規則性は認められない。



調査区全景（東上空から）



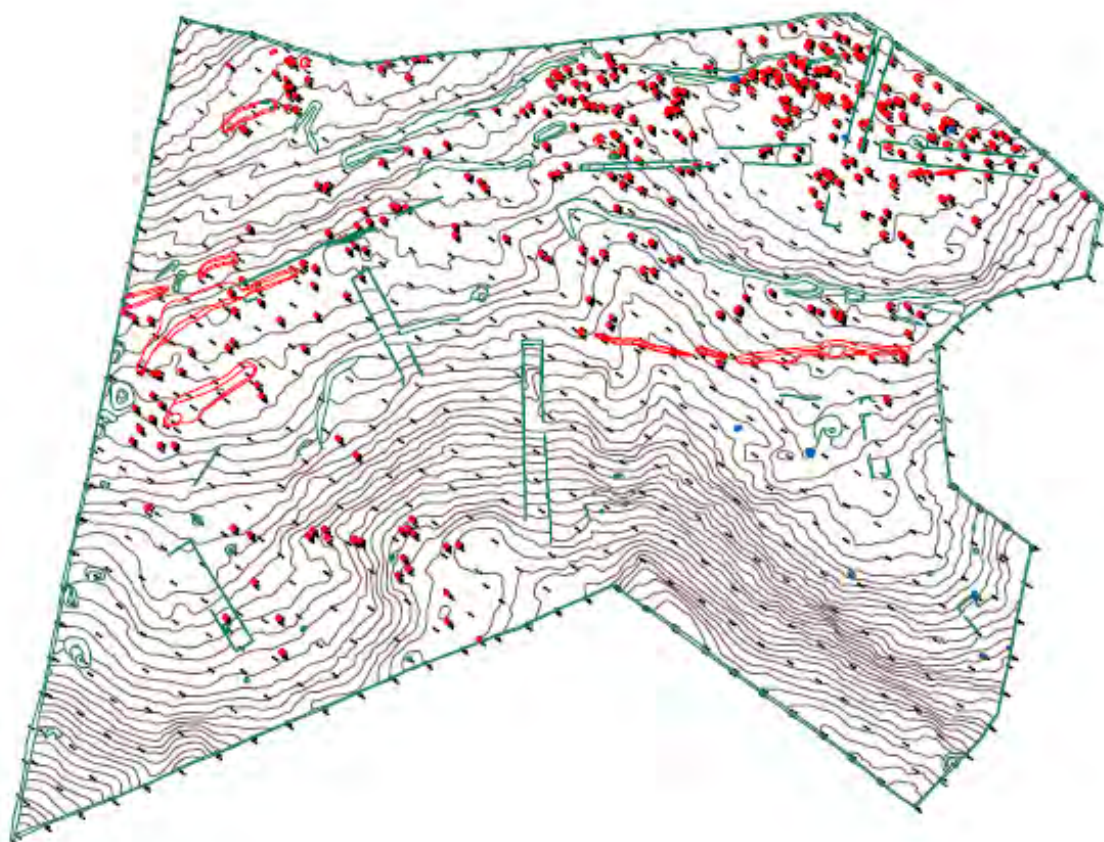
全景（南東から）



柱穴断面

### 3 まとめ

なお、今回に調査において、遺物は全く出土しなかった。このため、本遺跡の時期を特定することは困難である。さらには、今回の調査で検出した遺構あるいは遺跡の性格について、現段階においては明確にすることは困難である。今後、類例の把握に努め、遺構・遺跡の性格の検討を行っていく必要があるものと考えられる。



平面図（1：500）



### 第3章 出土品整理事業の概要

出土品整理については全て（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託し、兵庫県立考古博物館及び同魚住分館にて作業を行った。実施した作業は水洗い、ネーミング、接合・補強、復元、実測、写真撮影、図面補正、トレース、レイアウト、保存処理、分析鑑定、報告書印刷であり、このうち写真撮影と分析鑑定についてはまちづくり技術センターから専門業者に委託して実施した。

平成30年度に出土品整理を実施した事業は下表のとおり18件であり、内訳は国事業7件、県事業9件、市事業2件である。このうち8件については最終年度として発掘調査報告書を刊行した。



刊行報告書

|    | 事業者                           | 事業名                          | 遺跡名         | 報告書<br>冊番号 |
|----|-------------------------------|------------------------------|-------------|------------|
| 1  | 国土交通省<br>近畿地方整備局<br>兵庫国道事務所   | 175号西脇北バイパス事業                | 津万遺跡群1      |            |
| 2  |                               |                              | 津万遺跡群3      | 第503冊      |
| 3  |                               |                              | 津万遺跡群4      |            |
| 4  | 国土交通省<br>近畿地方整備局<br>豊岡河川国道事務所 | 一般国道483号北近畿豊岡自動車道<br>八鹿豊岡南道路 | 尼ヶ宮古墳群      | 第501冊      |
| 5  |                               |                              | 広瀬古墳群       | 第502冊      |
| 6  |                               |                              | 南構遺跡        |            |
| 7  |                               |                              | 定谷遺跡        |            |
| 8  | 兵庫県北播磨県民局<br>加東土木事務所          | （砂）宮前東谷川公共通常砂防事業             | 宮前鉾山跡       | 第504冊      |
| 9  |                               | （一）黒田庄多井田線 道路改良事業            | 喜多城山城跡      |            |
| 10 | 兵庫県淡路県民局<br>姫路土木事務所           | （二）船場川河川改修事業                 | 竹の前遺跡       |            |
| 11 | 兵庫県西播磨県民局<br>龍野土木事務所          | （主）太子御津線社会資本整備総合交付金事業        | 鍛冶田遺跡       |            |
| 12 |                               | （国）179号（太子道路）防災・安全交付金事業      | 鵜遺跡         |            |
| 13 | 兵庫県但馬県民局<br>養父土木事務所           | （急）上地(3)地区急傾斜地崩壊対策事業         | 音谷1号墳       |            |
| 14 | 兵庫県丹波県民局<br>丹波土木事務所           | （砂）稲塚川災害関連緊急砂防事業             | 稲塚3号窯跡      | 第505冊      |
| 15 |                               | （国）372号丹南バイパス道路改築事業          | 波賀野遺跡       |            |
| 16 | 兵庫県淡路県民局<br>洲本土木事務所           | （二）志筑川水系志筑川広域河川改修事業          | 大円道向遺跡      | 第506冊      |
| 17 | 姫路市                           | 姫路駅周辺地区総合整備事業<br>（キャストィ21）   | 豆腐町遺跡・駅前町遺跡 | 第507冊      |
| 18 |                               |                              | 神屋町遺跡       | 第508冊      |

## 第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）

### 1 事業の概要

平成29年度より、市町教育委員会の埋蔵文化財発掘調査を支援するために、「市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業」を開始した。この事業は発掘調査量の増加に伴う人員の不足や、経験の少ない職員の技能向上など、市町教育委員会が抱える課題に対して支援をおこなうものである。事業は（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が県教育委員会文化財課・県立考古博物館との連携・協力により実施した。

### 2 発掘調査の支援

#### 【概要】

市町が実施する発掘調査について、センターが現場運営・監理業務を受託し、支援をおこなう事業である。センター職員は「支援調査員」として、発掘現場における掘削、測量、写真撮影の各業務をおこなうとともに、市町職員の技術指導をおこなった。

#### 【平成30年度実施事業】

昨年度に引き続き淡路市の委託を受け、1件の事業を実施した。調査は淡路市教育委員会の若手職員とセンターのベテラン職員が共同で行い、淡路市職員の技能向上を図りながら調査が円滑に進行するよう現場運営・監理を行い発掘調査の支援を行った。

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名  | 平成30年度生田大坪地区遺跡発掘調査に係る発掘調査支援業務                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 遺跡名  | 赤松遺跡（淡路市生田大坪地区）、生田原遺跡（淡路市生田大坪地区）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 起回事業 | 経営体育成基盤整備事業（兵庫県淡路県民局洲本土地改良事務所）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 委託者  | 淡路市                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 調査期間 | 平成30年9月12日～10月29日（26日間）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 調査面積 | 赤松遺跡 288㎡、生田原遺跡 354㎡                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 調査概要 | <p>【赤松遺跡】</p> <p>古代末から中世の水田と溝を検出した。水田は10面以上確認できたが、遺存状況が良好な最下層の水田面の調査を行った。調査の結果3筆の水田区画と用水路の機能をもつと考えられる溝を検出した。今回の調査によって生田大坪地区の水田開発のはじまりを探る手がかりが得られた。</p> <p>【生田原遺跡】</p> <p>古代末から中世前期の溝と土坑墓が検出された。居住施設は確認できなかったが中世集落を構成する遺跡群と考えられる。溝は集落の南限を画する機能が考えられ、溝内より中国北宋時代の銅銭「大観通寶」をはじめ古代末から中世の土器が出土した。</p> <p>生田大坪地区の中世集落の存在は、淡路島北部域の狭小な谷部における集落のあり方を考える上で重要な手がかりが得られた。</p> |



### 3 市町職員研修

#### 【概 要】

市町等の埋蔵文化財担当職員の資質向上をはかるため、兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館との連携・協力により、業務の遂行に必要な知識・技術に関する研修及び発掘調査成果連絡会を実施した。

#### 【埋蔵文化財担当職員研修（基礎研修）】

日 時 平成 30 年 9 月 6 日（木）～7 日（金）  
 対 象 採用後概ね 5 年以内の市町等埋蔵文化財担当職員  
 会 場 兵庫県立考古博物館 体験学習室 3  
 参加者 19 名

|      | テーマ                     | 講 師                                           |
|------|-------------------------|-----------------------------------------------|
| 講義 1 | 埋蔵文化財保護行政について           | 永恵裕和（兵庫県教育委員会文化財課技術職員）                        |
| 講義 2 | 発掘調査に必要な記録について          | 篠宮正（（公財）兵庫県まちづくり技術センター調査第 2 課長）               |
| 講義 3 | 発掘調査の安全管理について           | 中川 渉（兵庫県立考古博物館埋蔵文化財課長）<br>渡瀬健太（兵庫県立考古博物館技術職員） |
| 講義 4 | 発掘調査の記録ーデジタル写真についてー     | 藤原怜史（（公財）兵庫県まちづくり技術センター技術職員）                  |
| 講義 5 | 出土品（木製品・金属製品）の取り上げと応急処置 | 大本朋弥（（公財）兵庫県まちづくり技術センター技術職員）                  |
| 演 習  | 発掘調査計画の作成               |                                               |
| 講義 6 | 文化財保護行政の展望              | 山下史朗（兵庫県教育委員会文化財課長）                           |

#### 【埋蔵文化財調査成果連絡会】

日 時 平成 30 年 11 月 30 日（金）  
 対 象 市町等埋蔵文化財担当職員  
 会 場 兵庫県立考古博物館 講堂  
 参加者 97 名

|      | テーマ                            | 講 師                      |
|------|--------------------------------|--------------------------|
| 報告 1 | 兵庫県：音谷 1・3 号墳の調査成果について         | 岸本一宏（（公財）兵庫県まちづくり技術センター） |
| 報告 2 | 豊岡市：第二次但馬国府関連施設（祢布ヶ森遺跡）の調査     | 仲田周平（豊岡市教育委員会）           |
| 報告 3 | 姫路市：姫路城城下町跡の調査成果について           | 中川 猛（姫路市教育委員会）           |
| 報告 4 | 赤穂市：放亀山 1 号墳の調査成果について          | 山中良平（赤穂市教育委員会）           |
| 報告 5 | 西宮市：高畑町遺跡出土の木製品について            | 森下真企（西宮市教育委員会）           |
| 講 演  | これからの埋蔵文化財行政ー遺跡と人と未来をつなぐメッセージー | 禰亘田佳男（文化庁文化財第二課）         |

## 第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要

### 1 現地説明会の開催

発掘作業の現場で現地説明会を開催し、発掘現場を体感する機会を提供している。平成30年度は10遺跡で11回の現地説明会を開催し、延べ1,274名の方が参加した。

| 遺 跡 名       | 所 在 地 | 開 催 日                | 参加者数   |
|-------------|-------|----------------------|--------|
| 竹貫古墳群・竹貫中世墓 | 豊岡市   | 平成30年7月1日（日）午前・午後2回  | 62名    |
| 宗佐遺跡        | 加古川市  | 平成30年7月21日（土）午前・午後2回 | 148名   |
| 前田遺跡・中筋遺跡   | 姫路市   | 平成30年8月26日（日）        | 235名   |
| 片山遺跡        | 加古川市  | 平成30年11月10日（土）       | 138名   |
| 耳谷草山古墳群     | 豊岡市   | 平成30年12月2日（日）        | 92名    |
| 郷着遺跡        | 姫路市   | 平成30年12月22日（土）       | 200名   |
| 福井池の下遺跡     | 相生市   | 平成31年1月19日（土）        | 185名   |
| 宗佐遺跡        | 加古川市  | 平成31年1月20日（日）        | 65名    |
| 郷着遺跡 B・C地区  | 姫路市   | 平成31年1月27日（土）        | 150名   |
| 合 計         |       |                      | 1,274名 |



福井池の下遺跡



郷着遺跡

### 2 発掘調査速報展示

現地説明会後に県立考古博物館のネットワークひろばで、現地説明会の内容と写真パネルを展示ボードに掲示し、現地説明会資料を来館者に配付した。1年間で約1,500部の資料を配付した。



発掘調査速報展示



### 3 GENBAビューイングの開催

ICT機器を活用して、発掘調査現場等と県立考古博物館を中継し、リアルタイムで双方向による質疑応答を行うなど、発掘調査の状況を体感できるGENBAビューイングを（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と県立考古博物館の共催により実施した。

平成30年度は5月に2回（洲本市洲本城跡・朝来市竹田城跡）と12月に1回（豊岡市耳谷草山古墳群）の合計3回実施した。

| 遺 跡 名   | 所在地 | 開催日      | 参加者数 |
|---------|-----|----------|------|
| 洲本城跡    | 洲本市 | 5月12日（土） | 186名 |
| 竹田城跡    | 朝来市 | 5月26日（土） | 187名 |
| 耳谷草山古墳群 | 豊岡市 | 12月2日（日） | 40名  |
| 合計      |     |          | 413名 |



GENBAビューイング実施状況

### 4 メインホール展示

発掘調査で話題となった遺物を県立考古博物館のメインホールで、（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と県立考古博物館の共催により実施した。

前田遺跡の子持須恵器



### 5 発掘調査速報会の開催

平成30年度に実施した発掘調査成果の発表、討論会を行うなど、最新の調査成果を広く県民に公開するための発掘調査速報会を開催した。

主 催 （公財）兵庫県まちづくり技術センター・県立考古博物館

日 時 平成31年3月10日（日）13:30～17:00

会 場 兵庫県立考古博物館 講堂

参加者数 70名

### 【調査成果の発表】

- ・耳谷草山古墳群（豊岡市）  
―古墳時代前期～中期の墳墓―  
（公財）兵庫県まちづくり技術センター  
埋蔵文化財調査部 大嶋昭海
- ・前田遺跡（姫路市）―古墳時代中期の集落―  
（公財）兵庫県まちづくり技術センター  
埋蔵文化財調査部 青山 航
- ・竹貫中世墓（豊岡市）―鎌倉時代の墓地―  
（公財）兵庫県まちづくり技術センター  
埋蔵文化財調査部 藤原怜史



発表遺跡にかかる討論の様子

### 【発表遺跡にかかる討論】

和田晴吾兵庫県立考古博物館館長及び発表者

### 【展示解説】

企画展「ひょうごの遺跡2019」に展示品を調査担当者が解説

## 6 ひょうごの遺跡の刊行

（公財）兵庫県まちづくり技術センターでは、埋蔵文化財情報誌「ひょうごの遺跡」98号・99号を刊行し、最新の発掘調査の成果を公開した。

### 「ひょうごの遺跡」98号（平成30年11月2日発行）

- ・古墳時代中期の先進集落―前田遺跡（姫路市）
- ・印南野台地に裾に広がる集落―宗佐遺跡（加古川市）
- ・古代の役所が間近に？―池ノ下遺跡（姫路市）
- ・山の上の古墳と中世墓―竹貫古墳群・竹貫中世墓（豊岡市）
- ・バックヤードツアー こどもスペシャルツアーを開催しました！
- ・発掘調査あれこれ③ 遺跡写真を撮る！

### 「ひょうごの遺跡」99号（平成31年3月8日発行）

- ・地域の有力者が葬られた古墳―耳谷草山古墳群（豊岡市）
- ・杉原川西岸の扇状地上の集落―前島・検上田遺跡（西脇市）
- ・火災に遭った竪穴住居跡―福井池の下遺跡（相生市）
- ・夢前川右岸に広がる古墳時代の集落跡―郷着遺跡（姫路市）
- ・城下町を掘る！―明石城武家屋敷跡（明石市）
- ・高台でみつかった集落跡―片山遺跡（加古川市）
- ・古墳時代の土器に感動！「発掘体験 掘ってみよう むかしの遺跡」
- ・発掘調査あれこれ④ 遺跡を測量する！





## 7 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡」の実施

兵庫県まちづくり技術センターの事業を一般県民にPRすると共に、考古学に興味を持ってもらい埋蔵文化財保護について理解を得るために実際の発掘現場において、自分の手で古代の土器を掘り出す体験を実施した。平成30年11月23日（金・祝）に 郷着遺跡（姫路市）で実施し、40名の参加があった。



発掘体験の様子

## 8 バックヤード見学ツアーの開催

収蔵庫や出土品整理室など博物館の舞台裏を見学するツアーを、県立考古博物館と（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部の共催で、夏休み期間中に開催した。

平成30年度はバックヤード見学ツアーを4回、土器接合体験・保存処理体験・拓本体験を組み合わせたこどもスペシャルツアーを1回実施した。

|     | 実 施 日         | 見学ツアー | スペシャルツアー | 参加者小計 |
|-----|---------------|-------|----------|-------|
| 第1回 | 平成30年8月1日（水）  | 31名   | —        | 31名   |
| 第2回 | 平成30年8月8日（水）  | 31名   | 16人      | 47名   |
| 第3回 | 平成30年8月22日（水） | 28名   | —        | 28名   |
| 第4回 | 平成30年8月29日（水） | 35名   | —        | 35名   |
| 合計  |               |       |          | 141名  |



---

## 平成 30 年度埋蔵文化財調査年報

発行日 令和 元（2019）年 12 月 27 日

編 集 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

発 行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 - 1

TEL 079-437-5589 FAX 079-437-5599

<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>

---



